

モントリオールの日本語センター

2015 - 2016 児童・中高等部



2015年－2016年 児童部・中高等部 文集目次

運営委員長 挨拶 … 4

役員 挨拶 … 5

<児童部>

児童1 小山先生 クラス写真 … 7	児童2 クラス写真 … 33	児童4 クラス写真 … 66
担任 小山 明子 … 8	担任 登 佳苗 … 35	担任 渡辺 志津香 … 67
アシスタント 棗田 敦 … 9	アシスタント 宮崎 恵子 … 36	秋山 沙羅 … 69
ニシハタ 香子 … 10	ウドン テオ … 37	江本 想里夢 … 72
チャペル タイン … 11	浦田 真弥 … 38	大道 真唯 … 74
ファラハット 夢源 … 12	笠井 健治 … 39	小野 恵真 … 76
ルキマ イヴァン … 13	ゼロット マエリス … 40	サーファロフ 渡洋 … 78
ウドラフ ウィリアム … 14	ニシハタ 脩 … 41	瀧野 七海 … 81
竹内 美蘭 … 15	ムレイティ 俊青 … 42	樋口 大貴 … 83
ギリス 心華 … 16	水野 真椰 … 43	宮崎シャブロー 勇輝 … 86
小池 勇豪 … 17	江本 彩夏 … 44	山本 理央 … 88
シュウセグホ デ レリ タイゾウ … 18	笠井 由貴 … 45	橋爪 海咲 … 90
ラジョワ ケイラ マユミ … 19	佐藤 秀実 … 46	◆……………◆
横尾 七海 … 20	土居 健人 … 47	児童5 クラス写真 … 92
◆……………◆	中野 連太郎 … 48	担任 木下 直子 … 93
児童1 秋山先生 クラス写真 … 21	樋口 直輝 … 49	飯田 優太 … 94
担任 秋山 知世 … 22	中村 楓 … 50	川島 ジェームス … 96
梅山 夏夜 … 23	◆……………◆	松尾 魁 … 98
清原 蒔輝 … 24	児童3 クラス写真 … 51	ルキマ アスティン … 100
アビラ 賢侍 … 25	担任 橋口 麗華 … 52	◆……………◆
川島 さつき … 26	杉 浩毅 … 53	児童6 クラス写真 … 104
四ヶ所 フェリックス龍 … 27	アビラ 春輝 … 54	担任 江本 昌子 … 105
小久保 成美 … 28	飯田 健太 … 55	秋山 勉 … 106
石川 大貴 … 29	小椋 太陽 … 56	板橋 サティヤ … 108
山田 ノア隆斗 … 30	ギリス 愛海 … 57	岩本 晃雄 … 109
傅 瑛 … 31	坂本 幸穂 … 58	橋口 千里 … 110
山城 藍璃 … 32	スアレス 薫メグ … 59	傅 麻耶 … 113
	チャペル フランツ … 60	福本 梨阿夢 … 114
	福本 ユリア … 61	山本 文子 … 116
	山城 鈴蘭 … 62	山本 大 … 118
	ライダー 想良 … 63	ムレイティ 遼真 … 120
	デリル テオ … 64	
	松井リブ … 65	

※ 名前、ページ数をクリックすると各ページへ移動します

2015年—2016年 児童部・中高等部 文集目次

<中高等部>

中高等1 クラス写真	… 123
担任 松田 智子	… 124
鈴木 カミーロ	… 127
仲井 ルカ哲也	… 129
福本 梨稀	… 130
ブファー 直美	… 131
マイアス 伊藤 弓	… 133
ムレイティ 龍耶	… 135
山城 丈恵琉	… 137
ウドン アリシア	… 139
大道 南緒	… 141
土屋 玲愛	… 143
ラッチマン 瑛美	… 145

<行事写真>

こどもの日	… 166
運動会	… 167
書初め	… 168
節分	… 169

◆……………◆

中高等2 クラス写真	… 147
担任 吉野 佳祐	… 148
池松 快	… 149
駒井 空	… 151
小林 百合子	… 153
沼野 友美	… 155
福本 莉那	… 158
マイアス 伊藤 光那	… 160
亀谷 真里亜	… 162
山城 久伶紋	… 164

。 ※ 名前、ページ数をクリックすると各ページへ移動します

2015年度、初めての役員、更には運営委員長という大役を、至らないところも多いながら一年間やり通せたこと、役員の方々をはじめ、日本語センターに関わるすべての方のお力添えによるものと、深く感謝を致しております。

この一年間委員長としてセンターの運営に携わりながら、一保護者の時には出来なかった経験もたくさんさせて頂き、たくさんの方の勉強をさせて頂き、多くの事を学ばせて頂きました。そして、改めてセンターは保護者一人ひとりの尽力によって成り立っているのだと感じずにはられません。先生方は生徒により良い授業を提供しようと、役員の方々、係りの代表の方々は、センターの行事、活動が円滑に進むように、日々の仕事や生活の傍らで時間を割いて試行錯誤を続け、その他の保護者の方々におきましても、子供達が行事を楽しめるように、気持ちよく授業を受けれるよう、各係りの担当、週当番等の役割を果たされています。その役割を果たしていることは、現在の授業料に反映されていると思いますし、今も大学の校舎や備品を借り続けることが出来ているということに繋がっていると思います。たとえ小さな役割であったとしても、一つでも一人でも役割を担えなければ、センターの運営は成り立っていきません。

私の二人の娘もセンターに通っております。センターに通い始めた頃は、娘の口から日本語が出てきた事はほとんどありませんでした。今でもおぼつかない事が多いですが、今では日本語を喋る時に前よりも自信を持っていると思います。私が教えたり聴かせたりした事のない歌を歌ったり、先生の言っていたことを真似したり、インターネットの普及により、簡単に日本語に触れたり、日本の文化を探す事が出来ますが、やはり生の日本語を学ぶ事、年間の行事を通して刺激を受ける事に敵うものではないと実感しております。

センターは成人クラスも含めると、今や300人を超える大所帯になっております。来年度は更に3クラスの増設に伴い、同じ校舎ではありませんが、二階と三階に移動することが決まり、更なる発展をしていくであろう日本語センターの軌跡の一部を担えた事を心より嬉しく思います。今年一年、本当にありがとうございました。

2015 - 2016 モントリオール日本語センター役員



子供達に日本語と文化継承を願う保護者と、楽しく学んでほしいと一心に願う教員の方々の努力によってセンターは成り立っていることを日々感じ、多くのことを学ばせて頂いた2年間でした。お力添えとご指導いただきました皆様に大変感謝しております。本当にありがとうございました。生徒数は今後も増えニーズも多様化していくと思いますが、多くの保護者の意見を交えながら子供達がますます楽しめるセンターとなることを期待します。

副運営委員長
ルキマ 陽子

正直不安だらけで引き受けた保護者代表でしたが、皆様のご協力のおかげで1年間なんとか務めることができました。とても充実していて、結構楽しく、そして あっという間の1年でした。いろいろとサポートして下さった保護者の方々、教員の方々、そして一緒にやってきました役員の皆様、ありがとうございました！ただただ感謝の気持ちで一杯です。

保護者代表
宇都宮 美恵

1年間、ありがとうございました。保護者代表の業務を通じ「継承語としての日本語」について深く考える機会と、多くの出会いに恵まれたことに感謝しています。センターに通うことで、子供達の中に「日本を誇らしく思う気持ち」を育むことが出来ますように！

保護者代表
上谷 則子

右も左も分からなかった役員業務。貴重な体験を通して沢山の事を学ばせて頂きました。そんな機会を与えてくださったセンターに携わる皆さま、役員仲間、そして日々支えてくれる家族に感謝致します。今後も、なにより子供達の笑顔溢れるセンター作りのお手伝いをしていきたいです。

副運営委員長
アサフ 真澄

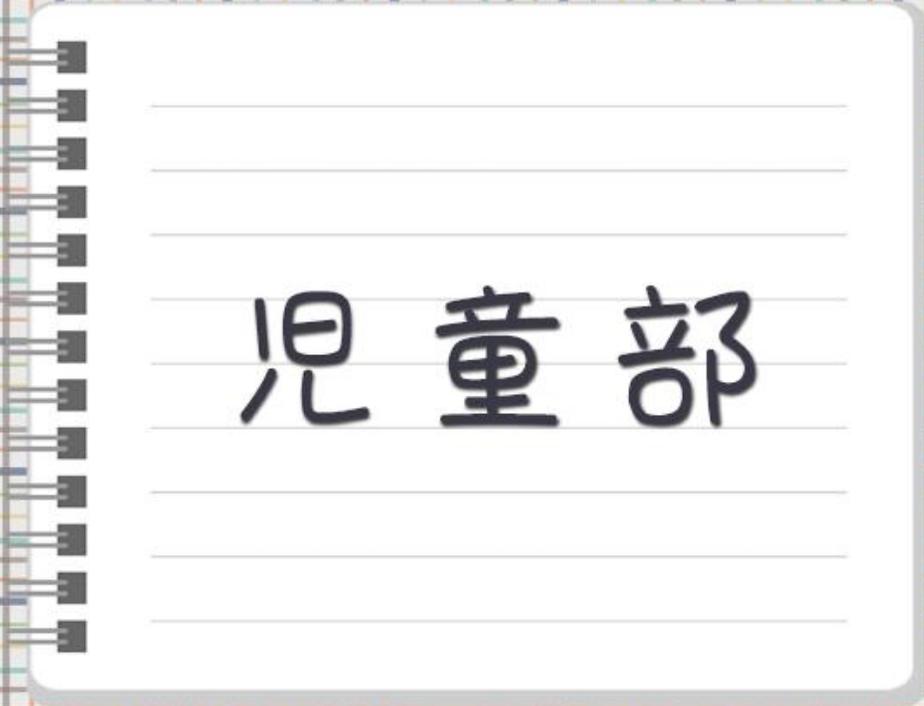
今まで毎週会ってはいても名前を知らなかった方、今年初めてお会いした方、やっと顔と名前が一致しました。本当にたくさんの方とお話する機会をもつことができよかったです。いろんな人がいて、いろんな人に支えられてこのセンターがあるのだなと実感しました。あっという間の1年でしたが楽しく過ごさせていただきました。

会計係
野崎 弘美

会計担当させて頂きました。役員を通してセンターの問題点、可能性を知るいい機会になりました。1年と言う時間は短過ぎてそれらを知ることが出来た時点でほぼ任期切れでした。2016年度継続を決め、引き続き皆様の力添えで子供達が誇りを持って楽しく通える学校の支えに微力ながら頑張ろうと思います。

会計係
ソープ 仁美





兒童部



児童部 1
小山 明子 先生



一年を振り返って

児童1 小山 明子

春、新学期が始まるたびにいつも願うことがあります。それは、「みんなに日本語をたのしく学んでほしい。日本語を嫌いになつてほしくない」ということです。

今年度はうれしいことに、一学期の最初から最後まで誰一人退校することなく、全員そろって学期末を迎えることができました。そして、全員がいつも元気に明るくセンターに来てくれました。

十一人がそれぞれ個性的で自由なのに、とてもよくまとまったクラスでした。日本語のレベルもとても高く、用意していった課題があつという間に終わってしまうこともよくありました。

二学期の途中でお手上げ状態になったこともありましたが、アシスタントに入っていたいただいた桑田さんをはじめ、気にかけて心配してくださった役員のみなさんや、お手伝いをしてくださった保護者のみなさん、それからなんとといって十一人の生徒たちがとてもよく頑張つたおかげで、残りの学期もすべて問題なく進めることができました。

保護者のみなさまには、通常通りのセンターに加え、それぞれの当番や役員、クラスの清掃など、本当にお世話になりました。至らなかつたこともたくさんあつたと思いますが、最後までサポートをしていただき、ありがとうございました。

また、役員のみなさま、教員のみなさまにも、大変感謝しております。まだまだ未熟者の私ですが、みなさまに暖かくサポートをしていただいたおかげでへこたれずにこれました。ありがとうございました。

去年の発表会が終わった頃、役員の方から「敦さん、来年度児童でアシスタントやりませんか？」というメールをいただいたのがご縁となって、あれよあれよと気づいてみれば、児童4、3、1を渡り歩くという流浪のアシスタントライフをおくることになりました。

最初はわんぱくな子供達のいるクラスに睨みを利かせて欲しい、なんていう話でしたが、実際にはどのクラスにもそんな必要は殆どなく、和気あいあいとした楽しい授業ばかり。各先生方に助けられながら、文字通りこちらが子供に元気を分けてもらった、というのが本当のところですよ。

いずれ自分の子供達もこの年齢層に入って来るので、その時の参考になれば良いかな、と思つて始めたアシスタントでしたが、蓋をあけてみれば、日々、自分が学ぶことの方が多いくらいで、つくづく貴重な経験をさせていただいたと感謝しきりです。すでに来年も続投することが決まっているので、今から楽しみです。

最後に音響係との兼任で、ただでさえ不慣れな自分が授業を欠席する際など、各先生方の優しい気遣いにとっても救われる思いでした。この場を借りて御礼申し上げます。



す	い	の	な	
け	て	り	お	わ
て	ど	た	い	た
あ	う	い	し	し
げ	ぶ	て	ど	は
た	つ	す	さ	う
い	を	ん	ぶ	お
で	だ	そ	に	こ

です。

く

題
あたしのゆめ

なまえ
にしはたマコ(うご)



が	ろ	た	か	が	ら	
す	い	い	し	り	お	お
ま	ち	か	き	た	か	お
で	ら	ー	い	し	さ	
す	こ	で	ぱ	で	や	ぐ
。	し	す	い	す	さ	な
ー	。	。	た	。	ん	。
	ト	し	べ	お	に	た

題
わたしのゆめ

なまえ
チャペルタイシ

題

ぼくのママ

なまえ

フタナハツトヨシゲン



		り	い	ひ	ぼ
		ま	で	こ	く
		た	す	う	は
		い	。	し	ん
		で	か	に	う
		す	せ	な	あ
		。	い	り	。
			に	に	う



た	い	り	の	な	ま
い		た		く	
	か	い	せ	た	は
な	ら	た	ん	ら	す
り		か	し	ス	お
た	せ	た	た	ケ	あ
い	ん	こ	に	ト	ま
た	し	い	な	ト	く

題
ぼくのゆめ
なまえ
イヴァン



4

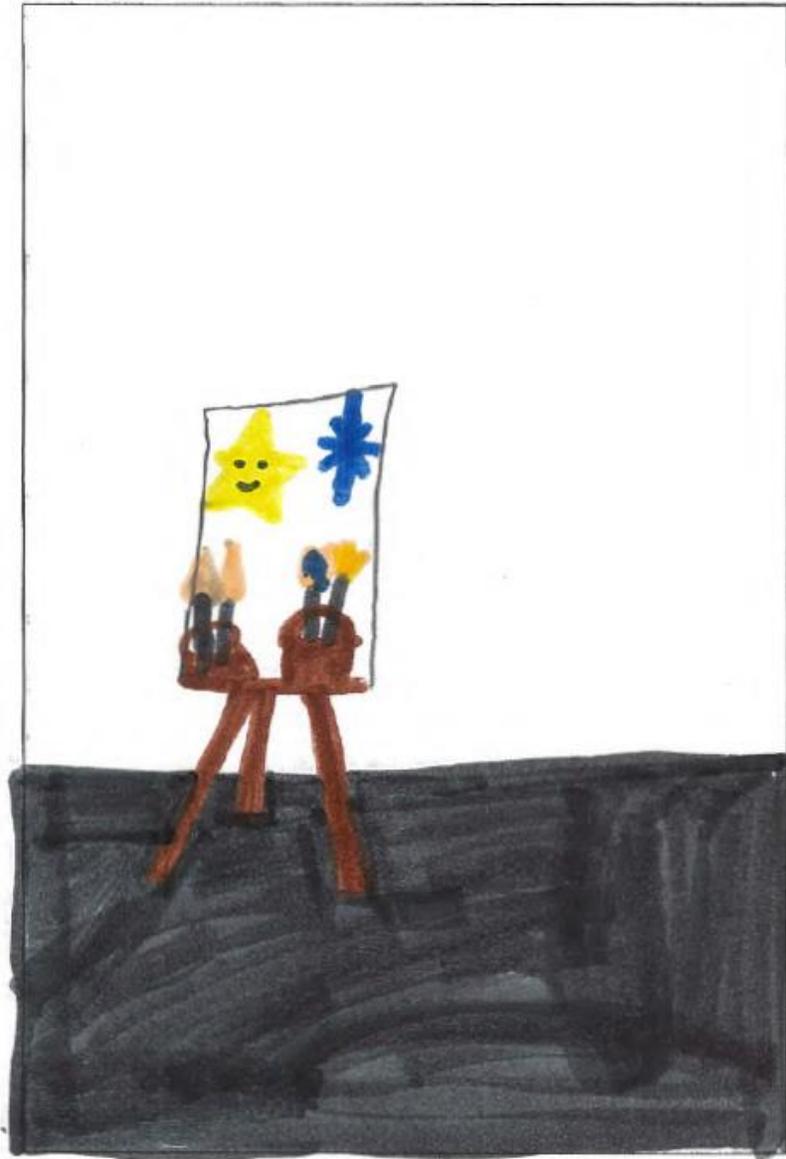
ず	ム	す	し	フ	
に	の		ゆ	ツ	ぼ
た	よ	オ	に	ト	く
リ	う	テ	た	ホ	の
た	に	ル	る	り	ゆ
い	じ	・	こ	ル	め
て	よ	べ	と	せ	は
す	う	か	て	ん	

題

ぼくのゆめ

なまえ

カドテア
ウィリアム

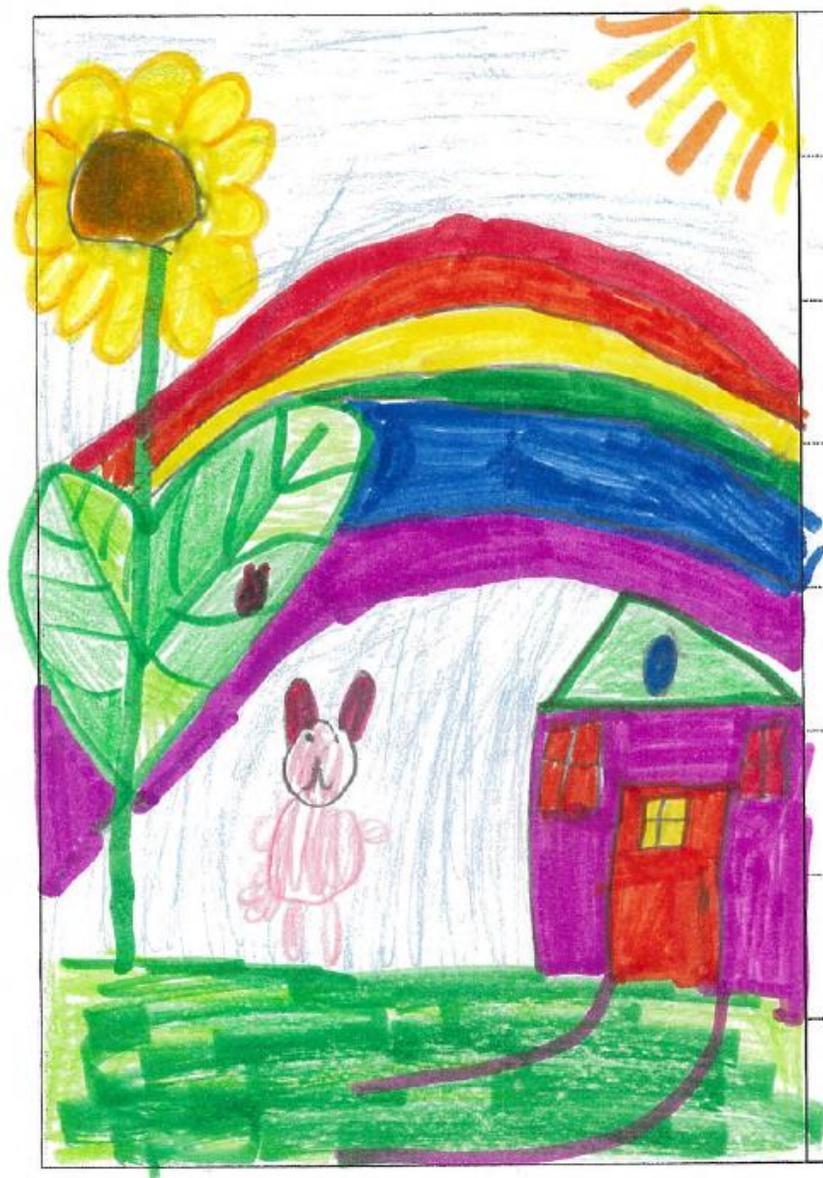


な	く	な	あ		わ
り	げ	た	た		た
た	い	た	し		し
い	じ	ら	は		の
ご	ゆ				ゆ
ず	つ	え	お		め
	か	を	き		
	に	か	く		

題

なまえ

みらん



				す	せ	
				。	わ	
					に	た
					な	し
					り	は
					た	
					い	せ
					で	ん

題

おたしのゆめ

なまえ

エリスみあな



い	し	す	さ	な	ぼ
で	や	o	ん	こ	く
え	さ	と	に	た	は
o	ん	く	な	ら	、
	に	に	り	お	お
	な	、	た	い	お
	り	は	い	し	ま
	た	い	で	や	く

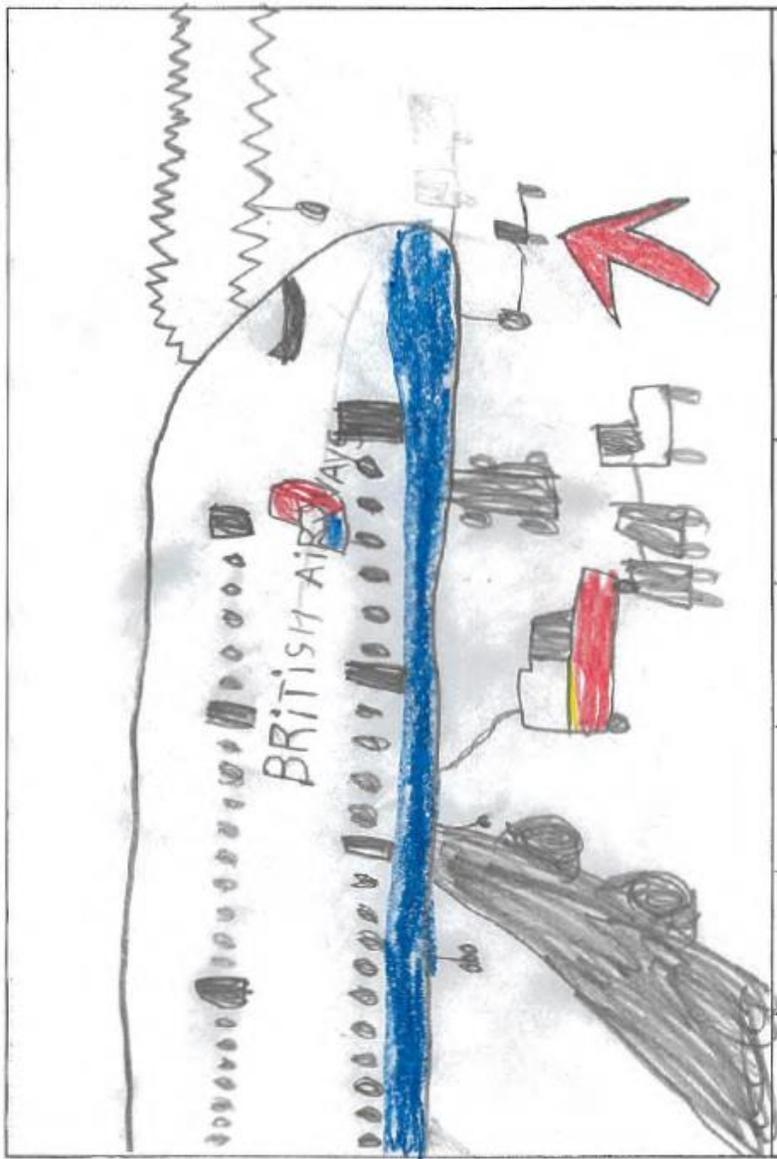
題

ぼくのゆめ

なまえ

こいけ

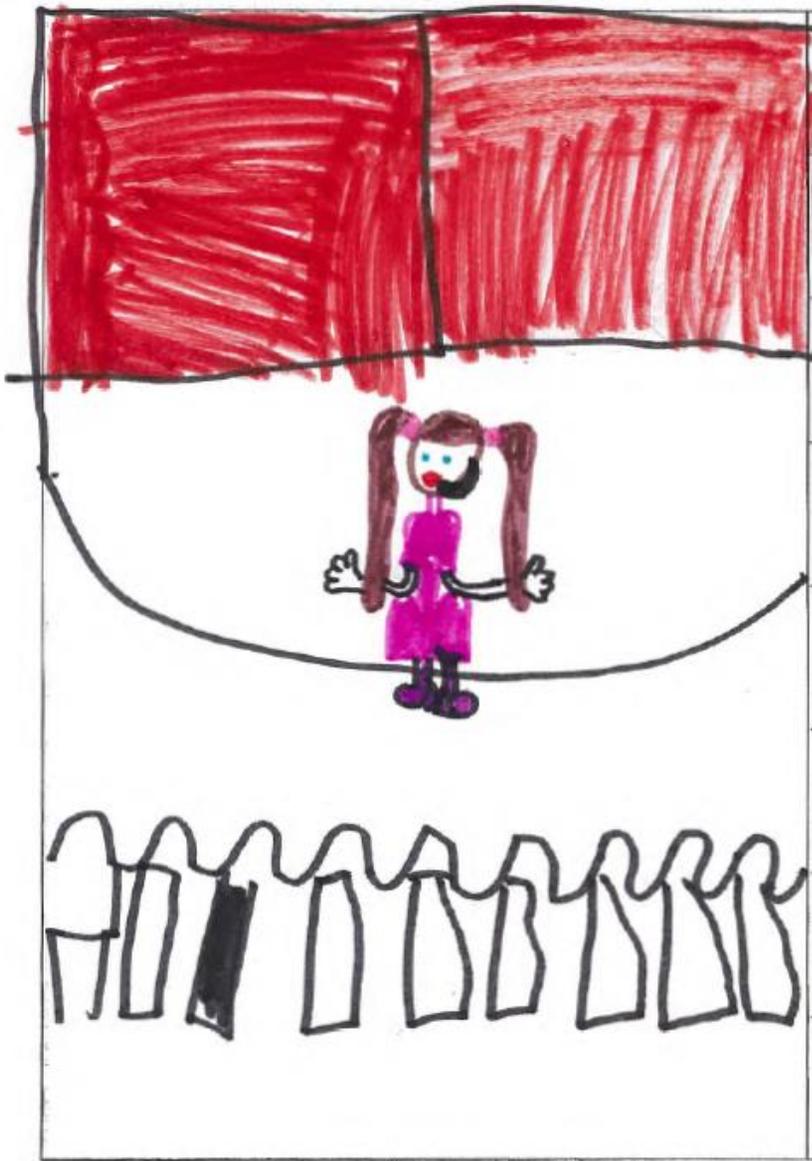
ゆ、な、が



こ	う	ト	こ	ぼ
す	ん	し	う	の
。	て	イ	き	の
	ん	ン	を	ゆ
	す	ゲ	ひ	め
	る	カ	。	は
	こ	ー	ぱ	い
	と	を	る	ひ

題
ト
ー
ン
グ
カ
ー

なまえ
た
り
ぎ
ら



り	あ	で	か	た	わ
し	と	す	し	っ	た
た	っ	え	ら	た	し
い	た	え	に	ら	が
で	り	て	た		あ
す	く	い	り		あ
	た	び	た		き
	っ	で	い		く

題
わ
た
し
の
め

なまえ
け
け
ら



	か	く	す	た	わ
	に	な	さ	り	た
	な	つ	な	た	し
	り	た	の	つ	は
	た	ら	で	く	い
	い	い	お	る	も
	で	さ	お	の	の
	す。	つ	ま	か	か

題
わたしのゆめ
なまえ
よこおななみ



児童部 1
秋山 知世 先生



ぼくのゆめ、わたしのゆめ

児童一 秋山知世

今年も児童一のお題は「ぼくのゆめ、わたしのゆめ」です。遙か昔のことではありませんが、両親の話によると、小学校一年生の時のわたしのゆめは「しよせつか」になることだったそうです。自分では、将来、小説家になりたいと思っていましたが覚えていませんが、クラスの友人がお話を創作して書いていたのに感化され、原稿用紙一ページにも満たないような話を書いたことは記憶に残っています。鳥になりたいという夢をもった少年が空を飛び回るといふような内容だったと思います。残念ながら、あれから数十年、未だに文壇デビューは果たせていませんが、一日の終わりに読書をするのが日々の楽しみになっています。江戸の町に紛れ込んだり、クライムシーンに遭遇したりと、本を通して、時空を越えて飛び回り、様々な体験をしています。

文集で書いたみんなのゆめも、大人になった時に、その子を形成している一部になってくれていたらいいなと思います。

さて、今回、初めて一年間の担任教員を務めました。授業の進め方や子供たちへの対応など戸惑う事も多くありましたが、本当に面白かったです。十人それぞれの個性がクラスを盛り上げてくれたと思います。何よりも、やる気を出せば、どの子もすごい力を持っているということを見せてくれました！ 児童二に上がっても、頑張ってください。

最後になりましたが、役員さん、同僚の皆さん、そして保護者の方々には本当にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。



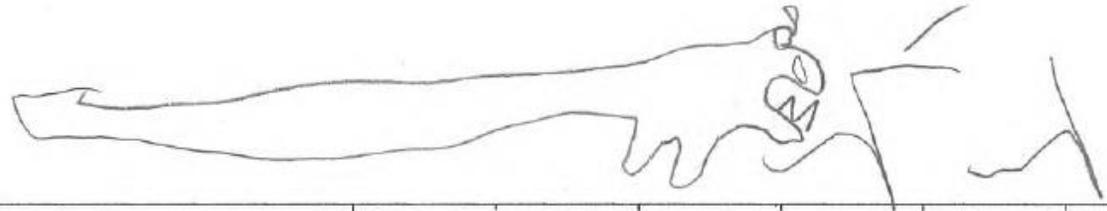


ワ	タ	コ	ニ	サ	ワ
モ	イ	シ	ナ	ッ	タ
タ	ヒ	コ	ル	カ	シ
イ	よ	、	コ	一	の
ゴ	ウ	ニ	ト	セ	ゆ
ス	ゴ	ッ	デ	ン	メ
〇	ゴ	ホ	ス	シ	ハ
	シ	ン	〇	ゆ	、

題
わたしのゆめ

なまえ
カサ

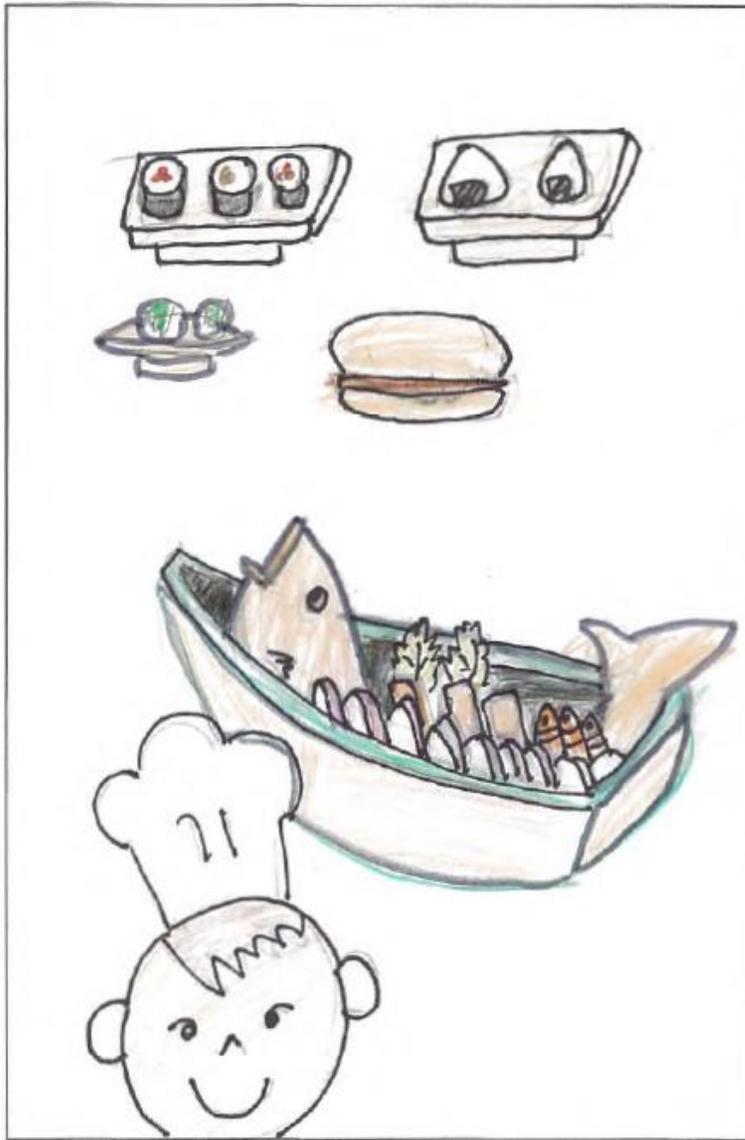
ス



ご	え	じ	た	こ	ほ
と	ち	よ	く	と	く
だ	か	う	さ	が	は
し	く	ず	ん	す	
た	こ	に	え	ま	え
い	と	な	か	だ	を
で	を	っ	い	か	か
す	し	て	て	ら	く

題
ほくのゆめ

なまえ
まよはらうき



	か	ま	で	シ	ま
	ら	り	す	エ	ま
	で	を	。	つ	き
	す	つ	お	に	く
	。	く	い	た	な
		り	し	り	っ
		た	い	た	た
		い	り	い	う
			よ		

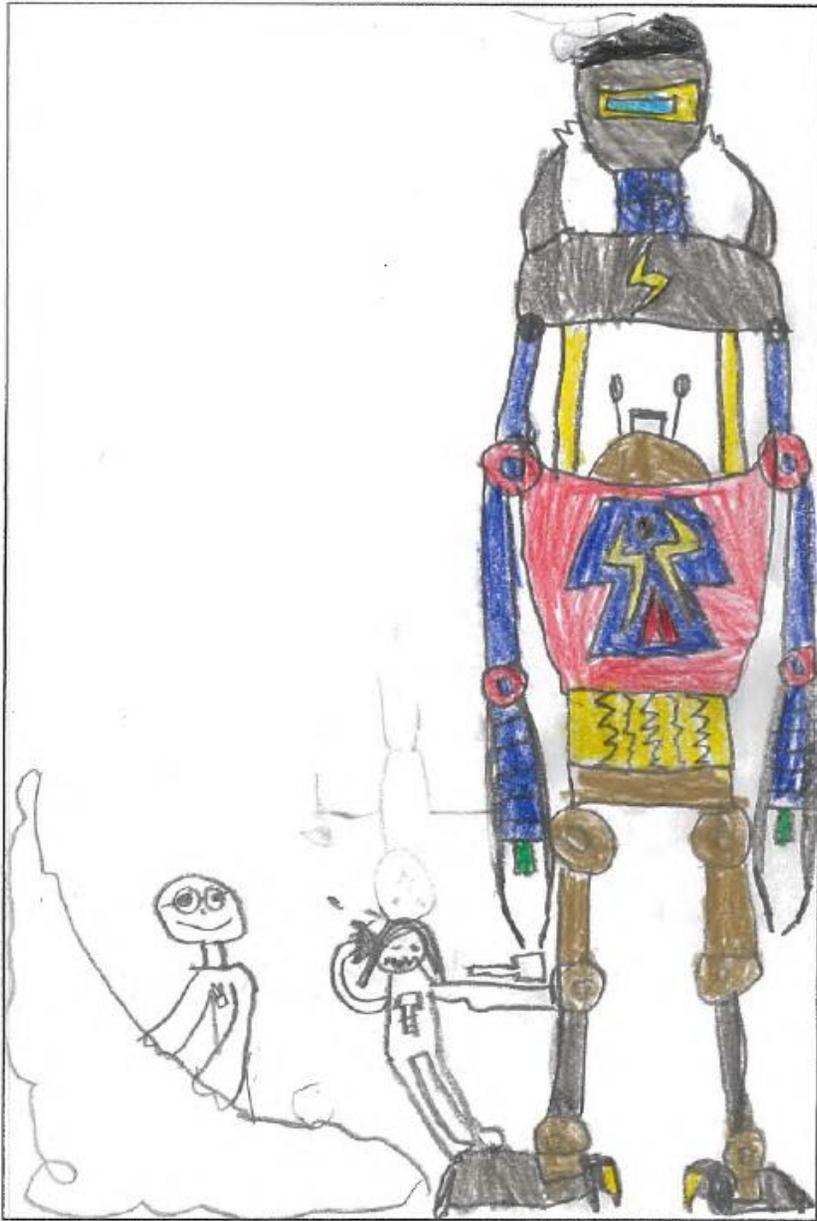
題
 ぼくのゆめ
 なまえ
 アビラけんじ



す	だ	ら	こ	い	あ
。	い	え	+	じ	た
す	え	で	ゆ	し	
ま	ま	す	つ	の	
だ	か	。	か	ゆ	
か	く	な	に	め	
ら	の	せ	な	は	
で	か	な	る	げ	

題
あ
た
し
の
ゆ
め

な
ま
え
ま
ま
ま
ま



	い	ス	ム	に	ほ
	て	ー	み	た	く
	す	ツ	た	っ	は
	。	き	い	て	か
		う	た	が	が
		く	モ	か	く
		リ	ビ	ン	し
		た	ル	ダ	や

題
 ほくのゆめ
 なまえ
 しんがしんが



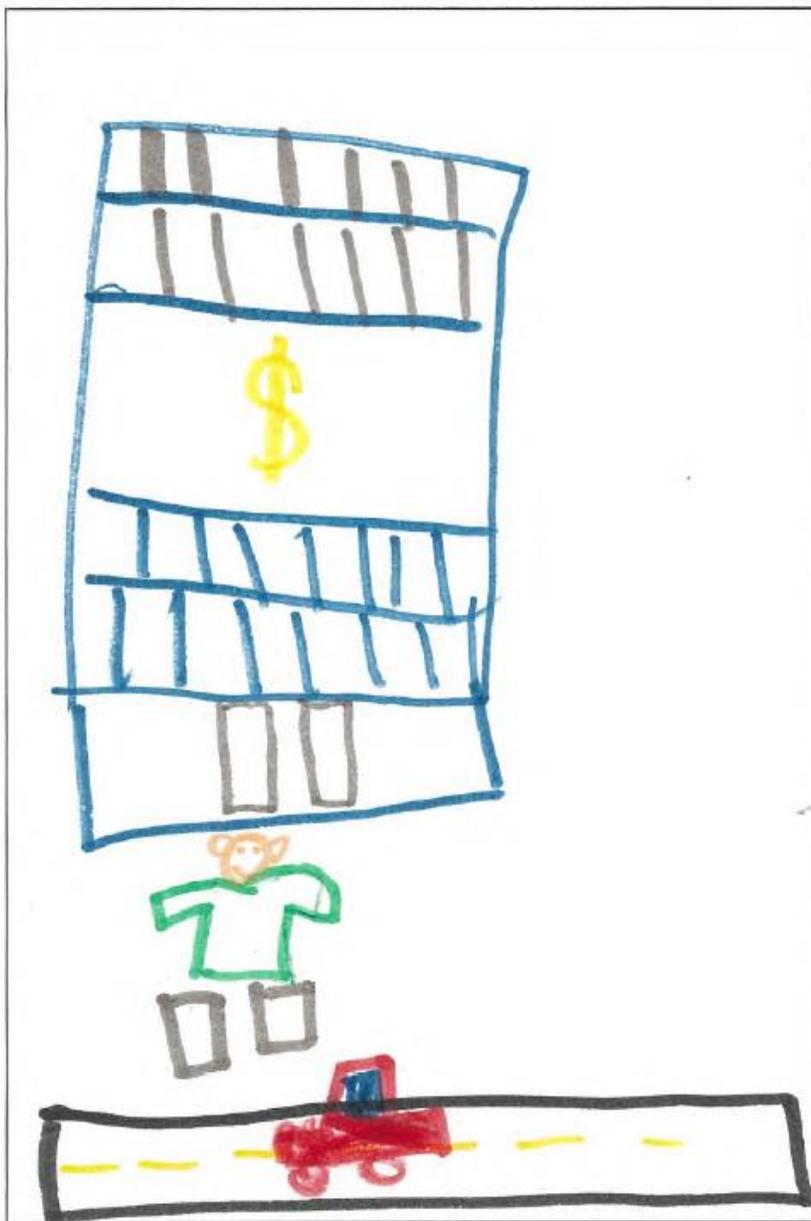
い	な	も	ど	せ	
ご	こ	た	ご	ん	あ
す。	と	ち	す。	せ	た
	き	に	さ	い	し
	お	い	し	に	の
	し	ろ	ご	な	ゆ
	え	い	ご	る	め
	た	ろ	ご	ご	は

題

あ
た
し
の
ゆ
め

なまえ

こ
く
ほ
な
ゆ
め
あ



	あ	い	た	ら	
	る	つ	ら		お
	か	ば	き	ぎ	お
	ら	い	た	ん	き
	て	お	い	こ	く
	す	か	て	う	た
	。	ね	す	て	っ
		か	。	は	た

題
ほくのゆめ
なまえ
いしかわだいし



に	に	な	そ	ト	エ
の	の	お	し	ま	ジ
ぼ	ス	ば	て	め	プ
り	イ	あ		に	ト
た	ス	ち	だ	い	の
い	の	ん	い	き	ロ
。	や	の	す	た	ラ
	ま	く	き	い	ビ
					ッ

題

夏
の
ゆ
め

なまえ

の
あ



ん	い	き	こ	は	お	わ
う	な	な	と	な	お	た
り	は	ダ	ご	や	き	し
ま	な	り	す	き	く	の
す	を	ア	ん	な	ゆ	
	た	や	だ	に	め	
	く	き	い	な	た	は
	き	れ	す	る	ら	

題

わたしのゆめ

なまえ

フハナ

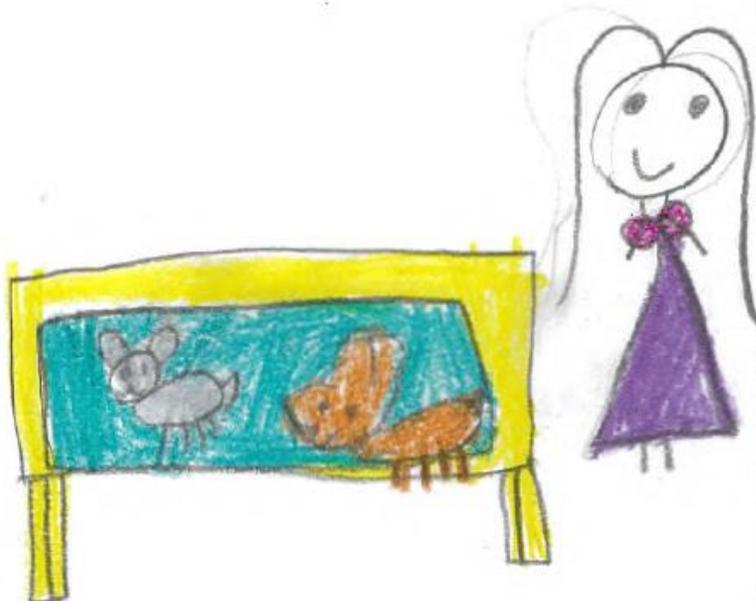
題

あたしのゆめ

なまえ

山ジロアイリ

う	ま	を	ど	ペ	
オ	な	し	う	ッ	あ
ボ	ど	た	ぶ	ト	た
こ	う	い	つ	ッ	し
す	う	こ	の	ヨ	の
。	つ	す	お	ッ	ゆ
	は	。	せ	プ	め
	、	ま	あ	で	は





兒童部 2 登佳苗 先生



私が日本語センターの教壇に初めて立たせてもらったのは、かれこれ五年前になる。最初の二年は、初めて2クラス態勢になった幼児2を全くの手探り状態で担当させてもらった。今年度、初めて児童2クラスを担当することになり、また手探りで奮闘する日々となった。今年のクラスは全十五人のうち男子が十人。元気いっぱい、ちょっとオカシイことが大好き。ノリも良い！。が、おふさげが始まったらホトボリはなかなか引かない。加えてクラス内の日本語力は様々で、常に大きな時間差が生まれてしまう。私は、どうにかクラス全員が揃って取り組める勉強法はないだろうか？と思案していた。

一学期の最終日、お楽しみ会でやった「ビンゴゲーム」でこのクラスの名物は生まれた。ビンゴの二十五マスに、数字の変わりに色々な字を生徒自身が書き込み、オリジナルのビンゴを作っていく。早く上がれるかどうかは全くもって運なのだが、生徒達は景品の「おりがみ一枚」欲しさに毎回全員必死である。（なんとかわいい。）これはしめたと、以降毎週新出漢字とおさらいの字を交えて、一年間この漢字ビンゴは続くことになる。

今回児童2を担当するにあたり、私は「生活科」の題材を取り入れたいと思った。日本の小学低学年が学ぶ生活科には、この年頃の子供達が生活の中で発見・認識すべき事が日本の暮らしや風習を介してうまく取りこんであると思ったからだ。

一学期、「わたしのおきにいい場所」というテーマで各自発表してもらった。ここでは、近所にあるお屋さんが多いかなという私の勝手な予想に反して、実際は自分の通っている学校や近所の公園が過半数を占め、彼らの日常の軸を感じられて興味深かった。

二学期は「リサイクル工作でおもちゃを作って遊ぼう」というテーマで、生徒達と相談して毎週少しずつ制作した。おりがみで作ったかえるを飛ばす「ぴよんぴよんかえる」「しゅりけんの当て」「牛乳パックのレーシングカー競争」「おさかなつり」「折り紙のドレスとネットワークス、モールの指輪」。どれも子供達のアイデアと工夫が詰まった見事な品が仕上がった。その集大成として「お祭り」と称し、クラスの保護者や児童1クラスの皆さんに遊びにきてもらった。子供達の顔は真剣そのもの。それは、自分たちの作ったものが人に喜ばれる喜びと自信に満ち溢れた表情だったように思う。各種目の値段や遊び方のルールを決め、担当する班割をして、お屋さんさんになる。私が幼い頃いく度としたこうした遊びが、今の子供たちには案外新鮮だったのかもしれない。ともかくその全ての工程に生徒達全員が参加し、相談し決断し、責任をもって取り組めた事、楽しかった事を、とても誇りに思う。

三学期は日本のお正月の遊び、かるた、福笑い、すごろくに触れ、発表会での演目の準備に取り組んでいる。これまた全員で制作、全員出演者である。

こうしてこの一年の記録を書き出してみると、なんだか全然勉強してないみたいであるが、実際、毎週の宿題や課題はそこそこタフだったろうと思う。それでもみんなよくついてきてくれた。これもひとえに保護者の皆様のご理解とご厚意ご協力があったこそ、心より感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

言語の習得は根気がいり、また文化的な体験は環境や機会に恵まれないとできない。私達が週1回のセンターの授業でできることには限りがあるが、幼い（若い）時期に体験した楽しい記憶とがんばった誇りは、後の大きな原動力になると信じている。子供たちがいろんな体験をしながらコツコツ学習を続ける結果、日本語の知識や語彙力が増え、センターのクラスや、これから出会う社会での発表や意見交換の際に積極的に参加できたら、「やれ、あっぱれ！」である。

児童二のみんな、楽しい時間をありがとう。私も、たくさんいい勉強させてもらいました。これからも、元気にがんばってね。ずっとずっと、応援しているからね。

あつという間の一年を振り返って

児童2 アシスタント 宮崎 恵子

長男を連れて日本語センターに来たのはもう十三年前。役員をやったり、バザーのリーダーをやったり、いろいろやっているうちに長男はセンターに来なくなり、次男はもう十歳になるうかというところで、きつとセンターに来るのもあと数年だろうと思っていました。ちょうどその頃、児童2のアシスタントを探しているという話を聞き、児童クラスのアシスタントならできるかも、と思い、今年初めてアシスタントをさせていただきました。

正直に言って最初は、自分の子供にも手を焼き、怒鳴り散らしている私が人の子にきちんと対応できるだろうか、なんて思っていたりしました。慣れないものだから、ばたばた毎週必死に対応しているうちに時間が過ぎ、夏休みになってから驚いたのは、児童2の子供たちがどうしているかなあと結構しよっちゆう気になっている自分でした。毎週大変だったのに、あの子たちの顔が見られないのが寂しいなんて！あの子は元気かなあ、日本で楽しんでるかなあ、とか・・・今までは、先生をしている方々は、現地校の方であれ、センターの方であれ、なんであんな大変なことができるんだろう、と思っていました。でも今年アシスタントをさせていただいて、こういう気持ちになるから先生ってというのは頑張っていられるんだなあと思いました。

運動が一番得意な子、工作が得意な子、リードを取るのが得意な子、誰とでもうまく対応できる子・・・運動会や折り紙、お店屋さん、かるたなどいろいろやっていくうちに、勉強だけでは見えない子供たちの長所がたくさん見えました。

私は決してやさしい先生ではなかったと思います。子供たちも、やさしくないなー、意地悪だなーと思ったかもしれないですね。でも、今年みんなと一緒に過ごさせて、先生は楽しかったですよー。大騒ぎなクラスだったけど、楽しいこともたくさんありました。みんなが笑顔で喜んでくれると、本当にうれしかったです。

児童2のみんな、来年からは勉強ももつと大変になります。でも今年、みんなは一生懸命勉強したし、よく努力してくれました。これからも、頑張つてセンターに来てくださいな。そして、笑顔を忘れずにね。勉強は楽しくないけど、楽しいこともある、友達と時間が過ごせる、そういう楽しかったことも忘れないでくださいな。

つたないアシスタントの私に我慢してくださいました（！）登先生、ありがとうございました！先生から学ぶものがたくさんありました。そしてそんな私にご協力いただいたご両親方、お子さんとの素敵な時間をありがとうございました。

題

わたりすきしあがし

なまえ

浦田十目次

かたしすきしあがしは

かたしすきしあがしは

かたしすきしあがしは

かたしすきしあがしは

かたしすきしあがしは

かたしすきしあがしは

かたしすきしあがしは

かたし





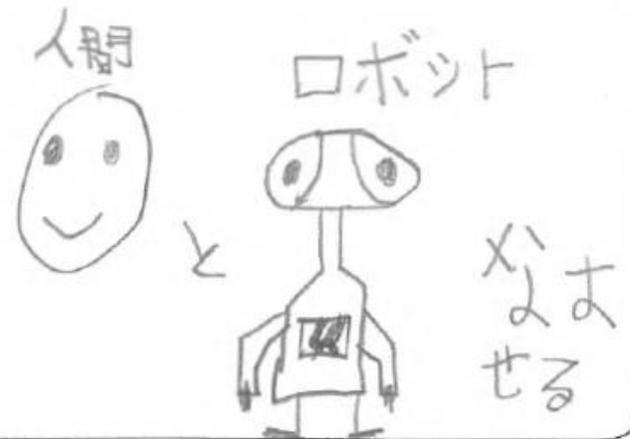
ぼくはポケモンが大スキです。
 ポケモンのキャラクターのなまえがだじゃれ
 になていきます。たとえばガビーンが
 いんごをたべています。たべおれた
 がビーンがあつて木をけて、木があ
 たまにたおれてガビーンゴーン。
 このはが、おもしろがです。

題
 ポケモンだじゃれをよんで

なまえ
 正井健治



題
 うさぎのくれたバレエシューズ
 なまえ
 マエリスゼロット
 わたしのおまににのりの本は「まおやまこ」さんの
 「うさぎのくれたバレエシューズ」です。このは
 やしは「おんやまのこはバレエがじよずになり
 たい」というははがしです。わたしのおま
 ばんすまやまのこは「おんやまのこがうさ
 ぎのくつやまんにあうとま」です。
 うさぎのまはとってもやましです。から
 そとまからまのこは「おまどりがまます。



ぼくのすきな本をしようがりにします。
 本の名前はブラックジャックです。作しは、まじか
 おや、虫です。ブラックジャックは、人間もロボット
 もよよさせるしボロボロから、すきです。ブラック
 ジャックは、あるじマゴで、手足が、うぶ、け
 なくかよりました。ただ、本朝先生といん
 いし、が、がれをたすけました、そして、いしや
 にかよることをききました。

題
 ブラックジャック
 なまえ
 西田 修



題
ちくちのちーせん

なまえ

伊藤 圭月

ちくちのちーせんはいろんかものにて
てちよーせんをしました。ちくちが
しそつた。ちくちのちーせんが
てたよまーぬよちみかはいって
ちくちのちーせんがくしかみちの
ぬよちみかからまーんたの
ま。



題

よ、いろがたいすま

なまえ

みずのまか

お、たのしいのよ、おれに、入りの本は
 松田と母子、子の、作の、うしろがたいすま
 である、この、文は、なしは、ま、こ、ち、や、ら
 と、ツカガ、お、いろ、に、は、なる、ま、う、み、の
 どう、う、い、つ、か、で、て、ま、こ、ち、や、ら
 とい、し、よ、に、体、を、ま、れ、い、に、し、ま、ま、か、た、い
 は、ま、う、ろ、が、たい、す、ま、な、の、で、こ、れ
 本、か、す、ま、で、す、。

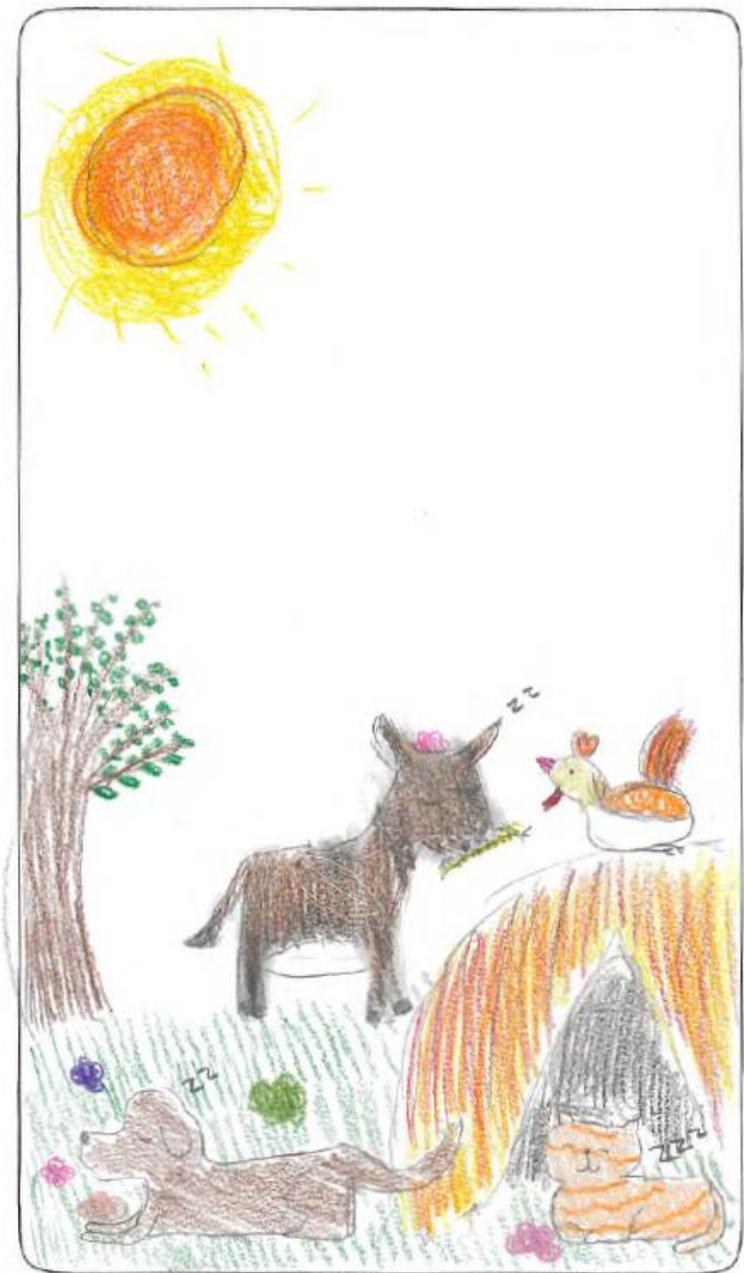
題 小さな小さなおかしな町

なまえ

江本 彩 百 々

わたしのぼん気に入りの本は、さかいらさしちえさくくの
小さな小さなおかしな町です。この言は、ポコポコが
おかしな町へでかけて、がいものまじたりーあそんだりしま
す。そのうち、ポコポコのぼんしが大きくなると、
ます。おかしな町かといふと、くまちゃんのおまたん
生日で、ぼんの中は、おかしなプレゼントでした。
わたしはこの本の絵が、かわいいとこころがすき
です。





題
ブレーメンの音楽隊

なまえ

笠井由貴

わたしのおまじいりの本は、グリムどろわのブレーメン
の音楽隊です。ロバは、音楽隊をしてブレーメンに
いんとちびでどろぼたちをみつけて、いんからおい牛
まじい、こえを出しました。わたしがこの本のすきなところ
は、どろぶったちが、こえを出してどろぼをいんから
たどるところです。おまじいりが、いんから



題

エアバス A380

なまえ

エアバス

この本は、エアバス A380 の本です。大きくは、
 ひこう機が大きい機です。エニレーンエ
 ルフラスルフトンザが
 つかえます。せかいでは、大きくはひこう機です。
 二かりだてです。

題名
スーパーパンツマン

なまえ

土居健人

ぼくのお父さんが入りの本は、「ティ
ブピルキー」作の「スーパーローパン
ツマン」です。男の子二人がいた
マンガの主人公「パンツマン」がある
ものとたまたまはなしです。

ぼくはこの本をよまるとおもしろくて
いつもゲラゲラ笑っています。



題

ワレヨンしんちゃん

なまえ

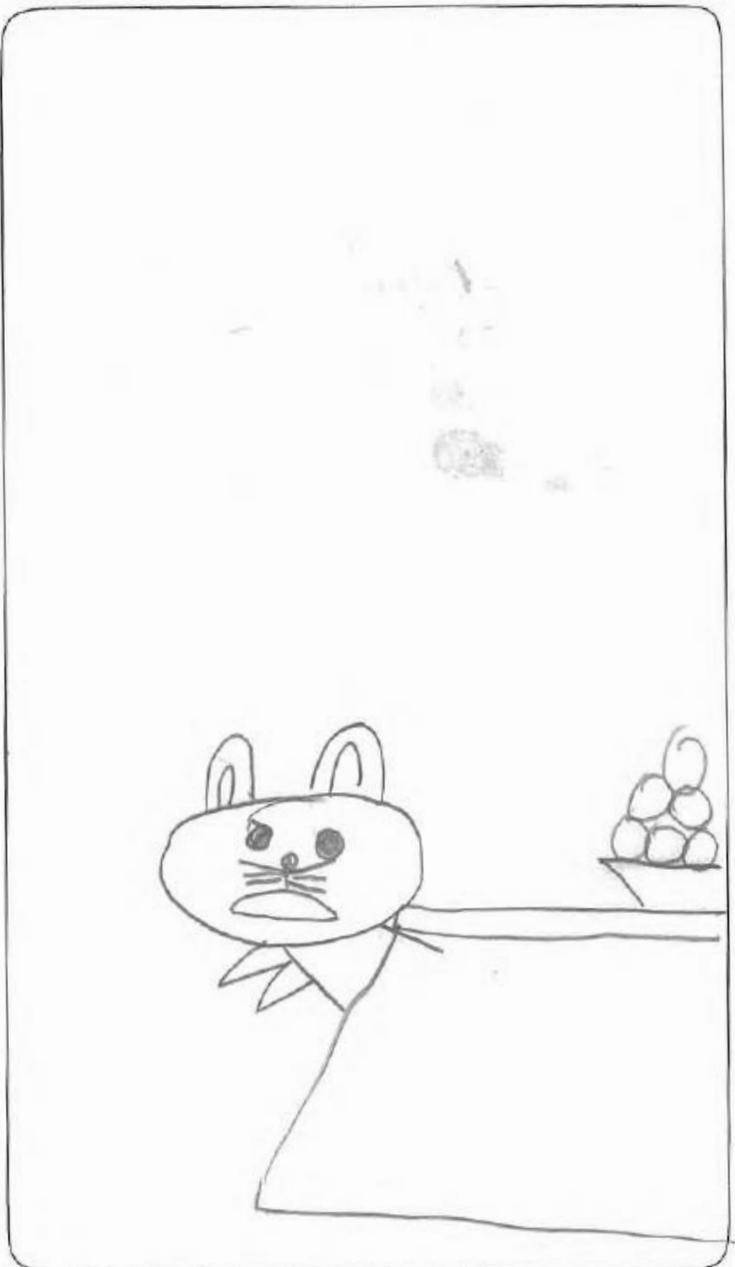
れんたろう

ワレヨンしんちゃんは5歳のようきんせいです。
だけごくたふはうことはからいります。いさあよまじら

んはかえらたがすきです。ゆききはうんてい
つぬやんていでもくてもはう入るやま

いらぬはよるよるいおはけい者うんてい
はたまくこまるくなま

ワレヨンしんちゃん





題
ノンタンおはよう

なまえ

めぐちなおま

おぼくのまゝにメツの本は、おまとも(メツ)に
せく(メツ)に、おはよう

ノンタン、おはよう、おはよう、おはよう、おはよう

みんなが、あまのきこて、おはよう、と、あ(おは)

つおして、おはよう、おはよう、おはよう、と

おはよう、おはよう、みんなが、よく、あ(おは)

です、おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、と

おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、と



題
 バムとケロのさおいあさ
 しま田め「かまの
 けくのお気にえりの本は、
 バムとケロのさおいあさ
 犬のバムとケロがあるさ
 おひるのかいちゃを、
 す。
 ぼくはみんな、
 をするとマラウがすま
 す。

題
 バムとケロのさおいあさ

なまえ
 中村 楓



児童部 3
橋口 麗華 先生



じどうごのみなさんへ

橋口麗華

一年がすぎるのは、はやいですね。

さいしよは じどうごでは どんなことをするのか わからなかったので、ドキドキしたでしよう。

だからかな？ やたら あと何分でおわるのー？ と よく聞かれました。
はやくおわってほしい 気もちが 大きかったかな？

だんだん おたがいに なれて行き、クラスでも たくさん 話をしてくれる ようになり、
どんどん楽しくなってきました。

べんきようは 楽しいだけでは ないので、これから もっと むずかしくなると、ときどき
イヤになるかもしれません。

けれど、つづける ことが だいじです！

これからも たのしく 日本語のべんきようを つづけてくださいね。



Copyright © 1993

今年も児童3の文集のテーマは、「今、一番がんばっていること」です。

何事にも意欲的に頑張る姿は頼もしいものです。

継続は力なり。

日本語だけでなく、勉強もスポーツも興味あることも、頑張つて欲しいと切に願います。

一年間、ありがとうございました！

日本語センターでの一年間

杉浩毅

私は一昨年12月にモントリオールに来て、去年の1月から日本語センターでお世話になっていきます。

ちょうど一年が経ち、その間に授業の中ではお正月の書き初め、ひな祭りのひなあられ、こどもの日の柏餅など、日本らしい行事がいくつかありました。

そういった行事を通して、保護者やセンターの方々の、自分たちが日本でしてきたことをここに住んでいる生徒たちにも伝えようという熱意を感じています。

中でも秋に行われた運動会の規模の大きさには大いに感動し、改めてコミュニティの強さを思い知りました。

この一年間、ミトコ先生の幼児クラスのボランティアに始まり、松田先生の中高等部のクラスのアシスタントを経て、今は橋口先生の児童クラスの授業をお手伝いさせていただいています。

クラスの始めは、いつも生徒たちとどう接するべきなのかすごく考えます。

しかし、生徒たちの自然な姿は、そんな私の不安をいつもあっけなく取り払ってくれます。

素直に疑問を持てる場所であったり、それを恐れず質問できるところであったり。大人の私はみなさんのそんな真摯な姿勢にハッとさせられます。

振り返ってみると、私の人生の中でこれだけ多くの子供たちと定期的に密に触れ合う機会は今までなかったように思います。

幼児クラスでは生徒の子から絵のプレゼントを受け取り、中高等部のクラスでは生徒たちとボーリングをし、今のクラスでは生徒たちとたわいなくも新鮮な会話を楽しんでいます。

この文集ができるまでの残り数ヶ月、これからみなさんのどんな表情が見られるのか、またどんなことを学べるのか。

わくわくしています。



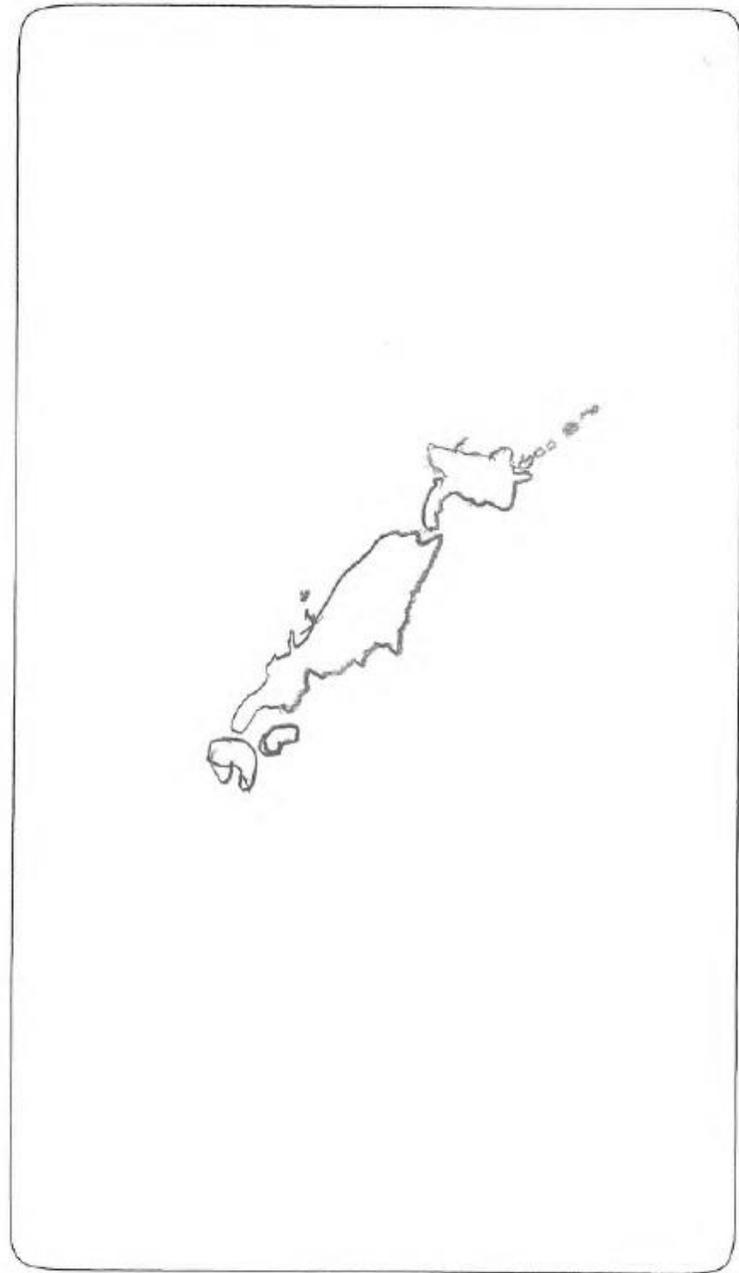
題

いちばんかんぱいこと

なまえ

アビラ

一ばんかんぱいしていることはサッカーです。毎週みんな
 しょうきしています。しょうびいはいいゴールキーパーにな
 りたいからです。その時バルロナのためにはよくコーチ
 になれるかもしれませんが、そのためによくコーチ
 のアドバイスに耳をかたむけます。



題

入フ ほんがんはつて

なまえ

いい田健太

ぼくは日本語のべん強をがんばっています。
毎日、本^を読^みをししたり、朝は学校の前に
べん強をしっています。

そのおかげで、日本語のまんがや
テレビが楽しめるから、うれしです。
これからも、がんばって続けて
いききたいです。



題
 が
 ざ
 ら
 る
 と

なまえ

た
 い
 せ
 ら

ぼくは、ホッケーとアイスホッケーが大好きです。
 ホッケーは、毎週の一回から
 来週は、ホッケーがあって週に一回から
 いしあひかあります。
 大々しくかよったからホッケーの
 せうしやになりたいです。



題

今日がんばっていること

なまえ

ギリスあひ海

わたしが一ばんがんばっていること
とはがっこうのぐんまきょうです。
しゅくだいとテストのぐんまきょうをじょう
かりやっつてはつゆい家になって
せいまつうしたいです。



題

「今」ばんがんばっているよ

なまえ

たかもと ゆきほ

今、ばんがんばっているよとピアノを毎日
くつ月曜日ほのぼり先生のいえへレッスンに
休まず行きます。わたしはピアノをひくのが
好きです。いつがトルコアラシキよくを上手にひけ
るようになりたいです。



題

お手あがり

なまえ

かおる

おうちがままにごはんつくるのたすける。ままがやさいきてる
 とまってるとき私はませる。ははが雪かきしてるとき私み
 てる。ゴマちゃんおながすいてるときもかわいくてコロキ
 をあげる。ともだちもしゃうくたいするのたすけ
 てる。私はみんなたすけるのすま。だからかんば
 てる。

題

今、ばんばんばん、とるん

なまえ

イブニングフラッシュ

今、ばんばんばん、とるん、とは、サッカーの
おんじゅうが、毎週一回、しあが、週一回
あります。

「ジェフ・ソンのポジションも、とらま
になりだいです。大きくなると、たいてい、
リスのチェルシーのせんしゅ、たいてい、
たいてい、です。」



題

今一番がんばっていること

なまえ

ゆりあ

私が今一番がんばっていることは体そうです。去年がはじめて体そうはとても楽しいです。このぼろ、平ゆい口、床体そうがおすすめです。体そうのクラスは、週一回あります。

家がら少しはなれたジムに通っています。新しいことをやっ、はいやっ、ここも楽しいです。私はここにこのぼろがおすすめです。





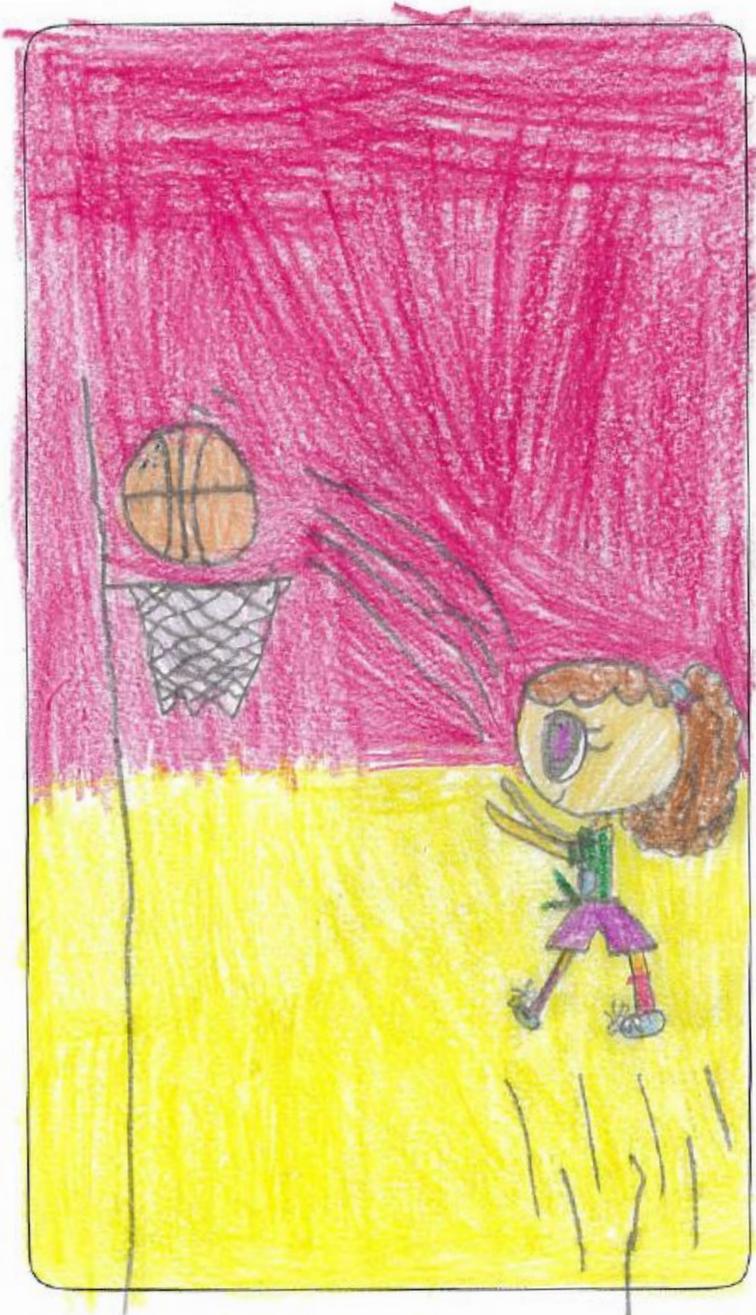
題

「今一ばんがんばってること」

なまえ

山しろえいさ

あたしが今一ばんがんばっていることは、たいそうです。まり日ロクまひらげておんじゅうをしています。じょうずになつてたいそうのせんとしゅうになりたいです。



題

今ばんがいはこころ

なまえ

相心白

わたしはバスケットボールをかばんがっています。
 土曜日朝日本小学校の前にはバスケットボールをや
 っています。とてもじゃうすいになりました。
 です。将来の夢はじゃうすいプロになりました。
 たいのです。あとインサはバスケットボ
 ルも好きです。



題

一ばんがんばっていること

なまえ

デリルテオ

△フ、一ばんがんばっていることはしゅくだいで
 す。いつも一しゅうけん△甲しゅくだいをぐっこまます。
 たく山べんキなうして、しゅう来は何でもぐっこ
 るはいゆうになりたいです。

題 バレエの練習白

なまえ 松井 理武

今、わたしの一番がんばっている事は、バレエです。

毎週、日曜日に日系文化会館まで、

通っています。わたしが入る。

ストレッチをしたり、バレエのステップの練習をしたり

とても楽しんでいます。先生の言いつけ

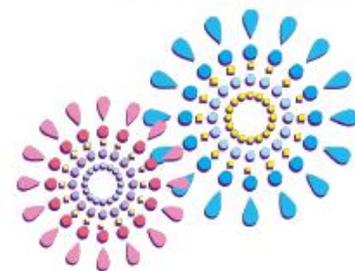
つねからは、もっとがんばって、いつかみるみわり人形に、

したいと思います。





児童部 4
渡辺 志津香 先生



一年間を振り返って

児童4 渡辺 志津香

今年度の児童四は十二名（男六名、女六名）でスタートです。元気いっぱいクラスということだったので、固定アシスタントとして榎田敦先生に初日から入ってもらったことになりました。四月・五月と時間がたち、みんなが慣れ、緊張が解けてきた頃、どのように雰囲気を変化するのだろうか？とかなり不安になっていました。しかし、ほとんど変わることなく、とつても穏やかなクラスです。そこで、敦先生には児童三との掛け持ちで交代に入ってもらったことになりました。

「敦先生は？」朝いないととっても残念がる子供たち。ちよつと申し訳ない気分になりました。

二学期になると、教人の生徒が入れ替わり、十一名となつてしまいました。しかも敦先生には固定で他の学年に入ってもらったことになってしまいました。それでも、子供たちは色々なことに興味を持ち、前向きにがんばってくれました。時には投げ出してしまいたいこともあったと思いますが、みんな根気強くがんばれました。

今年は、みんなで「読書をしよう」とクラスで図書室に本を借りに行きました。本を読んで、レポートを書くというものです。家にある本、図書室で借りた新しい本、それぞれに自分の興味のある本を色々読んでくれました。現地校もあり、忙しい中、少しでも日本語の本を読むきっかけになってくれればと思つての提案でした。年間を通して十五冊以上読んでくれた子もいて、とてもうれしく思っています。がんばってくれてありがとうございます。保護者の方々、サポートありがとうございます。

最後になりましたが、いつも多大なるサポートをいただいております、保護者の方々、役員の皆さん、教員の皆さん、本当にありがとうございます。

今年の文集のテーマは「本で調べて報告しよう」です。もちろん、今の時代、便利なインターネットがあるので、それもフル活用です。みんなどのような事物に興味を持って調べてくれるのでしょうか。

1 枚目

	こ	ン	思	は	足	じ	来	や	か	に									
	と	夕	い		が	か	ま	く	ま	わ	わ	は							
	に	一	ま	は	み	い	せ	走	え	で	た	じ						ど	
	し	エ	し	や	じ	け	ん	い	よ	あ	し	め						は	う
	ま	ッ	た	く	か	ど	。	こ	う	そ	は	に						や	し
	し	ト	。	走	い		わ	つ	と	ん								く	こ
	た	で	だ	れ	の	は	た	か	し	で	犬							走	犬
	。	理	か	る	に	や	し	ま	こ	い	を							れ	は
		由	ら	の		く	の	え	も	る	か				秋			る	
		を	団	か	ど	走	犬	る		時				山				の	
		し	か	ふ	う	れ	は	こ	と	に	こ							か	
		ら	ん	し	し	ま	足	と	て	犬	い				山				
		べ	や	ぎ	こ	す	が	が	も	を	ま				山				
		る	イ	に	犬	。	み	出	は	つ	す。				山				

つ	す	分	ゆ	び	犬	か	は		が	り	を	に	て	人		
しま	が	び	だ	は	か	次	出	前	横	の	い	間	犬	わ		
て	た	少	で	け	と	と	に	来	足	に	ば	る	は	に	か	
い	な	す	で	か	を	こ	る	を	の	せ	の	は	？			
て	犬	い	赤	か	地	も	犬	の	も	ば	ま	で	さ	た		
長	は	の	だ	き	と	面	ち	の	で	せ	す	こ	さ	こ		
い	で	か	ま	が	に	が	後	は	と	ま	う	つ	こ	と		
時	き	ら	す	上	つ	い	ろ	や	前	せ	で	で	か	つ		
間	ん	は	地	に	け	ま	足	く	に	ん	も	を	ら	が		
は	肉	や	面	そ	お	て	す	と	走	の	犬	ま	か	お		
や	も	く	に	れ	る	歩	人	れ	ば	そ	は	た	り			
く	は	走	つ	も	の	き	人	間	ま	す	の	す	が	ま		
走	れ	れ	く	四	で	ま	間	の	す	こ	か	前	ぐ	広	せ	
れ	た	ま	部	本	ゆ	す	は	足	と	れ	足	横	が	ん		

3 枚目

		犬		つ				て	は	を	が	こ	は							ま
		の	ド		小	し		い	や	す	か	と	や	犬	お					す
		体	ク		学	ら		る	く	る	り	か	く	の	わ					。
		セ	タ		か	ベ		と	走	時	を	あ	走	体	り					
		ミ	ー		ん	だ		思	れ	の	す	か	れ	は	に					
		ナ	ズ		の	も		い	る	犬	る	り	る							
		ー	ア		団	の		ま	こ	ぞ	時	ま	よ	人						
		足	ド		か			し	と	り	や	し	う	間						
		コ	バ		ん			た	を	を	ひ	た	に	に						
		シ	イ		ネ			。	か	す	つ	。	出	く						
		ヘ	ス		オ				く	る	じ	犬	来	ら						
		ん	パ		ど				に	時	の	は	こ	べ						
			ピ		う				立	な	せ		い	る						
			ー		ぶ				こ	ど	わ	人	る	と						

1 枚目

を	す	う	す	り	ど	い	ま	年	乙	紙	て		み			
前	す	は	日	ま	く	ろ	し	ど	ま	紙	紙	む	を	ぼ		紙
ご	と		和	し	自	な	た	ろ	た	作	を	か	も	く		は
に	は	な	紙	の	た	の	く	で	の	る	作	し		は	い	ど
ゆ		が	を	紙	紙	る	そ	す	は	ぎ		の	て		ど	う
り	紙	し	作	は	が	う	の		か	い	こ	日	し	み	う	や
う	す	ず	る		作	を	ご	中	せ	の	い	本	ら	が	四	
ご	き	き	と	和	う	し		国	せ	つ	た	ご	べ	か		こ
か	の	ご	き	紙	れ	て	日	か	い	が	の	は	ま	な	江	作
す	と	す	の	と	る	い	本	ら	き	日	で		し	紙	本	ら
や	き		と	よ	よ	き	人	人	の	本	し	ど	た	に	想	れ
り	に	な	く	ば	う	し	か		六	に	よ	う		き	里	た
か	道	か	ち	れ	に	日	い	て	百	入	う	か		よ	夢	か
た	鼻	し	よ	ま	な	本	る	来	+		か			う		

2 枚目

く	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ			
う	い	で	和	昔	り	ら	と	り	く	と	り	い	ん	と	夕	げ	こ	
ち	で	は	紙	の	ま	び	に	ま	て		う	を	い	ん			と	
い	も	洋	し	日	す		よ	す	も	せ	こ	こ	か	げ	が	り	で	
和		紙	か	本		な	り		じ	ん	か	テ	ら		ソ		よ	す。
紙	で	を	お	人		め		ま	よ	い	し	の	作	み	ビ	う		
は	も	つ	り	に		ら	せ	た	う	か	ま	上	ら	の	な	は	は	
か	今	か	ま	と		か	ん		ぶ	か	す	で	れ	和	ど			
ん	回	う	せ			で	い	ゆ	な	ら		た	ま	紙	か	こ		
ま	し	こ	ん	と		美	が	り	紙	み	こ	こ	す	は	お	う		
よ	ら	と	で	紙		し	き	う	か	合	う			こ	り	ソ		
う	べ	の	し	と		い	れ	ご	で	い	し	よ	こ	う	ま			
に	で	方	た	い		紙	い	か	ま		て	こ	の	ソ	す	い		
や	い	か	か	え		に	に	す	あ	う	す	に	せ	の		い		

3 枚目

												ま	和	こ	こ	ん	さ
												す	紙	ん	る	ち	し
												。	に	ど	も	と	い
												ふ	日	い	お		
												れ	本	る	す	い	
												こ	に	い	な	上	
												み	行	る	ど	う	
												た	く	と		ふ	
												い	と	分	和	で	
												と	き	か	紙	紙	紙
												心	は	り	の	も	
												。		主	よ	ち	
												こ	せ	し	い		
												い	ひ	た	と	空	

1 枚目

生	り	日	キ	ウ	五		え	足	も	く	つ	し	か	つ	食		
え	ま	本	グ	セ	百	食	て	り	よ	ぶ	の	て	ま	ば	虫		
て	す	に	サ	ン	六	虫	い	な	う	つ	二	き	え	な	し		食
い	。	も	は	ユ	十	し	る	り	分	が	と	。	て	ど	。		虫
ま	ハ	ニ	セ	ケ	し	よ	の	分	の	は	を	う	消	て	く		し
す	エ	十	か	ヤ	。	く	て	を	少	え	い	し	化	虫	ぶ		。
。	ト	し	い	タ	る	ぶ	す	虫	な	て	い	。	し	や	つ		く
	ソ	。	中	又	い	つ	。	を	い	い	ま	う	。	小	と		ぶ
	グ	る	に	キ	あ	は		食	土	る	す	す	え	ど	い	大	つ
	サ	い	あ	モ	り	せ		グ	地	所	。	る	い	う	う	道	
	も	ぐ	り	。	ま	か		る	な	は	食	し	よ	ぶ	の		
	日	う	ま	ミ	す	い		こ	の	。	虫	。	う	つ	は	真	
	本	い	す	ミ	。	中		と	て	と	し	く	分	を	。	哇	
	に	あ	。	カ	モ	に		て	。	て	よ	ぶ	て	つ	は		

2 枚目

												ご	虫	か	は	ん	
												す	を	い	っ	す	ハ
												。	っ	さ	ば	き	エ
													か	わ	に	た	ト
													き	る	っ	食	リ
													え	と	い	虫	グ
													る	、	て	し	サ
													の	は	い	よ	は
													ご	っ	る	く	、
													お	は	毛	ふ	私
													も	が	に	っ	の
													し	と	虫	ご	い
													る	じ	が	す	ち
													い	て	ニ	。	ば

1 枚目

を		あ	べ		か	し	あ	り	わ		ご	ほ	と						
は	ど	り	ル	ア	ら	は	り	わ	ケ	フ	し	か	れ	こ					
な	れ	ま	ギ	フ	で	い	ま	大	国	ラ	よ	に	こ	こ			フ		
し	く	す	イ	リ	す	し	す	陸	あ	ン	う	は	い	か			ラ		
こ	ら	な	わ	こ	ご	り	ス	か	ど	る	十						ン		
い	い	ど	の	い	こ	は	ま	語	こ	こ	タ						ス		
る	の	ヨ	ほ	た	れ	十	す	を	で	と							話	語	
か	人	い	か	国	は	五	話		つ	ば	ケ						さ	は	
と	が	口	に	が	ケ	そ	す		か	フ	べ	小	れ	ど					
い	フ	は		お	フ	国	の	国	わ	ラ	ツ	野	こ	こ					
う	ラ	パ	ス	お	ラ	い	う	は	れ	ソ	ワ							い	こ
と	ン	の	イ	か	ン	じ	ち		こ	ス	州	恵	る						
	ス	国	ス	ス	ス	ア	ニ		い	語	で	真	の						
せ	語	も	や	た	が	う	フ	十	る	は	話								か

		り	し	ん	さ		で	ス	オ	エ	ス	さ	リ		十	の	か
		に	い	で	ん	ア	つ	人	リ	い	語	ん	ソ	二	五	人	い
		思	け	し	話	フ	く	に	ン	ま	が	は	ピ	〇	パ	で	の
		い	れ	た	さ	リ	ら	よ	ピ	す	つ	オ	ッ	一	一	す	人
		ま	ど	〇	れ	わ	れ	ッ	ッ	か	か	リ	ク	六	セ	〇	ロ
		す	わ	フ	エ	で	た	エ	ワ	〇	あ	ソ	が	年	ン	ち	の
		〇	た	ラ	い	フ	か	一	い	そ	れ	ピ	あ	は	ト	な	三
			し	ン	る	ラ	ら	ハ	い	れ	て	ッ	リ	、	で	み	・
			は	ス	の	ン	で	れ	ん	は	リ	ク	ま	ブ	す	に	五
			話	話	は	ス	す	四	会	、	る	で	す	ラ	〇	え	パ
			せ	は	し	語	〇	年	が	こ	の	は	が	ジ		い	一
			こ	む	リ	が		に	フ	く	を	フ	、	ル		語	セ
			ほ	ず	ま	た		パ	ラ	さ	し	ラ	み	で		は	ン
			こ	か	せ	く		リ	ン	い	ッ	ン	な	オ		二	ト

2 枚目

1	な		目	と	ル		よ	な	カ	ヨ		ル		あ			
ト	ど	ブ	が	い	か	テ	い	深	で	ウ	ぼ	以	深	る	ぼ		
ル	あ	口	体	ぬ	ら	メ	か	海	あ	チ	く	上	海	の	く		深
か	た	ブ	の	い	ハ	ニ	い	魚	ン	ガ		の	魚	で	は		深
ら	た	フ	中	で	百	ギ	し	が	し	ア		と	と	し		サ	魚
チ	カ	イ	に	あ	メ	ス	ま	い	ら	ン	し	こ	は	ら	深	1	に
二	い	ツ	あ	さ	1	は	あ	ま	べ	コ		ろ	ふ	べ	海	フ	つ
百	所	ツ	リ	と	ト	水		あ	て	ウ	て	に	カ	ま	魚	ア	い
メ	の	2	ま	あ	ル	深			み	と	る	あ	さ	し	に	口	て
1	木	は	す			四		い	た	ダ	深	ん	二	た	き	フ	
ト	深			て	頭	百		く	ら	イ	海	で	百		よ		
ル	六	太		い	部	メ		つ	い	オ	魚	い	メ		う	渡	
に	百	平		ま	は	1		か	ん	ウ	は	ま	1		見	洋	
い	メ	洋		あ		ト		し	ん	イ	チ	あ	ト		が		

	魚	石	こ	外	ら	な	で	ま
	が	み	た	見	チ	な	あ	あ
	み	た	も	か	メ	た	。	。
	つ	い	あ	ら	ー	こ	世	ほ
	か	で	り	う	ト	と	界	と
	。	す	ま	ナ	ル	も	一	ん
	て	。	す	ギ	い	あ	み	ど
	い	た	。	ザ	あ	り	い	水
	ま	く	生	×	ん	ま	く	分
	す	さ	き	と	で	す	い	で
。	ん	こ	よ	い	。	生	せ	
の	の	い	ば	ま	ト	物	ラ	
深	深	る	れ	す	ル	No.1	チ	
海	海	化	る	。	か	に	ン	

は	じ	つ	の		に	の	ま	木	ン	ら	帰	茶	あ				
こ	を	て	し	は	そ	し	作	し	か	茶		が	と	わ			
う	し	作	て	を	し	ま	ッ	た	ら	な	ッ	た	有	た		お	
さ	お	っ	っ	て	し	方	°	作	ど	°	時	名	ん	し		茶	
せ	れ	た	は	み	分	た	の	そ	°	か	く	に	な	が	の		の
る	さ	の	°	取	か	°	ち	こ	て	あ	茶	お	と	住	お		作
の	せ	か	こ	°	っ		か	で	い	°	茶	こ	ん	じ			り
か	て	り	う	て	た		い	る	て	こ	屋	ろ	で	い			方
こ	°	°	し	°	こ		を	こ	と	°	う	さ	で	い	ち	滝	の
う	か	く	な	す	と		調	れ	教	同	茶	ん	す	る	°	野	ろ
茶	ん	茶	い	ぐ	は		ス	ら	え	じ	°	に	°	町	ん		か
、	全	、	よ	に	、		る	の	て	あ	ウ	行	日	は	、	七	い
そ	に	二	う	加	お		こ	お	く	茶	、	°	本	、	お	海	
の	は	厚	に	ぬ	茶		と	茶	れ	の	口	た	に	お	ば		

2 枚目

四	い	三	ぬ	二	は	ち	一	ま	お		楽	に		い	う	せ	中
、	人	、	い	い	い	入	、	う	り	終	し	ま	こ	う	さ	て	間
お	れ	湯	入	ホ	ま	れ	茶	か	し	わ	め	の	こ	せ	火	で	
茶	、	ぎ	ホ	ッ	で	て	わ	い	い	り	る	て	よ	と	て	を	、
の	一	ま	ま	ト	湯	、	ん	し	り	に	こ	、	う	で	作	通	一
味	分	し	す	い	ぎ	六	に	ま	エ	、	と	い	に	し	る	す	度
か	く	し	。	お	ま	十	ふ	す	く	お	を	る	加	た	の	と	だ
同	ら	た		茶	レ	度	、	。	茶	店	知	ん	エ	。	か	い	け
い	い	お		の	レ	か	と		の	の	り	な	方		ワ	う	は
い	待	湯		は	ま	ら	う		入	人	ま	お	法		、	を	
な	ち	を		を	す	八	し		れ	に	し	茶	の		口	半	し
る	ま	ホ		少	。	十	た		方	聞	た	の	ち		ン	ば	お
ま	す	ッ		し		度	お		を	い	。	味	か		茶	、	れ
う	。	ト		タ		し	湯		し	た		を	い		と	こ	さ

1枚目

供	カ	カ		チ	せ	ま	で	ん	は	全	は	て			せ		
を	ソ	ん	お	け	ず	す	も	な	、	ポ	、	カ	い	赤	ポ		
安	ガ	は	わ	で	に			に	お	ケ	赤	ソ	た	ち	ケ	カ	
全	ル	も	り	い	乳	赤	ぶ	小	乳	ッ	ち	ガ	ガ	ヤ	ッ	ソ	
に	一	の	に	い	首	ち	い	さ	の	ト	ヤ	ル		ん	ト	ガ	
育	の	す		の	に	ヤ	に	く	出	で	ん	一	世	は	ガ	ル	
て	ふ	ゴ	カ	で	ぶ	ん	育	生	る	す	を	の	の	こ	あ	一	
る	く	く	ソ	す	ら	は	こ	ま	乳		育	お	理	ぶ	る	の	
た	ろ	小	ガ		さ		る	れ	首	ふ	て	な	由	た	ル	の	お
め	は	す	ル		ガ	中	こ	た	ガ	く	る	か	も	め	口		な
に	小	い	一		で	と	赤	あ	ろ	た	の	あ	と				ガ
	さ	で	の		こ	は	ガ	ち	り	の	め	ふ	り	わ	大		に
お	い	す	赤		い	何	で	ヤ		中	の	く	ま	ガ	ま		は
な	子		ち		る	も	き	ん	と	に	安	ろ	す				な

②	へ	ス	ヒ°	W	①	わ	た。	イ	こ	く	か	く	は	た。			
フ	1	ゴ	°	0	フ	か	°	ン	い	は	し	す	ば	じ	み	の	
オ	9	1	1	1	T	°		タ	る	、	ば	き	く	め	や	か	い
テ	5	フ°	タ	こ	e	た		1	の	ヒ°	べ°	な	は	に	さ		つ
ッ	8	を	し	れ	n	こ		ネ	こ	テ	た	の	、		ま		ビ
セ	年	つ	ゲ	は	n	と		ッ	、	オ	い	こ	ビ		シ		テ
イ	ウ	か	1	、	i			ト	そ	ゲ	と	、	テ		ヤ		オ
ル		°	ム	は	S			こ	れ	1	思	い	オ		フ°		ゲ
こ		こ	こ	じ				も	こ	ム	い	つ	ゲ		ロ		1
れ		あ	す	め	f			し	し	の	ま	作	1		1		ム
は		そ	°	こ	0			ば	ば	本	し	ら	ム				が
、		び	オ	の	r			1°	1°	を	た	れ	が		勇		作
さ		ま	シ	コ				ま	こ	も	°	た	す		輝		ら
い		す。	ロ	ソ	ト			し	、	°	ば	の	こ				れ

2枚目

	つ	ぞ	今		ら	に	ム		お	ス	ボ	ポ	ゲ	③	2	し
L	ウ	カ	お	の	ぼ	れ	は	か	し	わ	コ	ソ	ソ		年	よ
e	↑	っ	ど	ゲ	く	ま	、	作	9	リ	アル	ゲ	ム	ホ	〜	の
S	キ	た	3	1	は	し	さ	ら	5	に	が	の	ソ			ゲ
	10	本	き	ム	、	た	い	れ	8		あ	か	ム	オ		ー
l	テ		ま	と	さ	。	し	ま	年		り	く	ぞ	テ	は	ム
o	↑		し	せ	い		よ	し	に		ま	と	す	ッ	じ	き
o	P		た	ん	し		の	た	さ		す	が	が	せ	め	ぞ
l			。	せ	よ		ゲ	。	い		。	か		イ	こ	す
				ん	の		ー	ー	し			え	音	に	ヒ	。
J				ち	ゲ		ム	9	よ			ら	が	に	ッ	〜
e				が	ー		き	7	の			れ	あ	た	ト	ー
u				う	ム		が	2	ゲ			る	リ	ピ	し	9
X				の	が		作	年	1			し	、	ソ	た	7

4 枚目

シ	持	ニ	・	オ	オ	ま	す	の	本	か	と	よ			
の	コ	黄	あ	し	ト	す	じ	で	当	の	言	に	く	雨	
フ	こ	・	ら	ン	ン	す	じ	し	に	色	い	じ	に	上	に
音	い	ト	緑	さ	ン	ゴ	の	よ	に	を	ま	は	じ	か	じ
階	た	ン	・	ま	・	れ	色	う	じ	見	す	こ	を	り	は
に	の	は	青	で	黄	を	は	か	は	る	か	七	見	の	本
対	ご	音	・	す	色	そ	主	七	?	は	こ	七	か	空	当
応	ド	楽	紫	・	の	張	色	と	七	と	何	よ	け	や	に
さ	し	理	の	主	緑	を	し	と	言	の	が	回	こ	山	七
せ	ミ	論	五	要	・	色	た	言	わ	の	出	数	す	水	本
、	フ	に	色	な	水	味	の	お	れ	色	来	え	・	ま	な
あ	ア	興	で	色	色	は	老	こ	七	か	ま	こ	母	き	理
と	ソ	味	す	は	・	赤	色	こ	七	あ	せ	も	は	の	央
カ	ラ	を	か	赤	青	赤	色	い	ま	る	ん	七		時	?

2 枚目

		何	度	と	で		で	な	だ	科	に	色	で	し	ま	じ	ら
		色	に	い	な	こ	す	く	い	学	じ	と	す	の	す	つ	あ
		か	じ	う	い	の	。	一	で	の	の	と	。	色	。	ま	い
		考	を	こ	と	調		何	一	問	色	ら	に	の	で	を	色
		え	見	と	い	べ		色	何	だ	か	え	じ	と	す	合	と
		て	た	か	け	で		と	色	い	何	る	の	ら	か	あ	オ
		み	ら	分	な			見	に	で	色	国	色	え		せ	し
		よ		か	い	に		る	見	は	に	も	を	方	各	た	ン
		う	ぼ	り	お	じ		か	え	な	見	あ	2	は	国	と	ツ
		と	く	ま	け	は		と	る	く	え	る	色	ち	に	い	色
		思	の	し	て	必		い	か	文	る	そ	を	か	よ	あ	加
		い	に	た	は	ず		う	レ	化	の	う	や	う	つ	れ	え
		ま	し	。	な	七		こ	こ	の	か	で		そ	こ	こ	こ
		す。	は	今	い	色		と	は	問	は	す。	3	う	に	い	つ

1 枚目

兄	い		ガ	ス	し	ち	ニ	す	め		た	ま			エ
の	で	三	ら	ト	ジ	て	は	番	。人	一	ご	し	今		し
へ	す。	番	で	×	を	こ	と	自		ど	番	す。	た	日	わ
×	た	日	す	”	あ	の	お	の		う	目		。		た
か	と	の		セ	つ	本	くり		な	の	ど	そ	新		し
ら	え	り		い	め	は	に	ゆ		せ	り	う	の	し	の
と	ば	ゆ		ジ	た	往	う		い	ゆ	し	本	い		本
な	兄	う		は	も	す	ん	は		ガ	う	こ	は	本	
り	は	は		十	の	×	で			く	は		。	お	を
の	ば	話		人	ご	ス	い	レ		の			も	読	橋
レ	ガ	お		の	す	ト	ま	ア		女	主		し	み	丸
ア	で	も		友	。	×	す	の		の	人		る	お	
の	す	し		た	テ	”	。	友		子	公		ガ	わ	海
へ	。	ろ		ち	×	セ	そ	た		ご	は		”	り	咲



児童部 5
木下 直子 先生



今はまださなぎだけれど

児童五 木下 直子

今年度は少人数五人、そして全員男子児童で、2年前の女子児童だけだった時の真逆でした。男子校というのはいかような感じなのか？（未知の世界）と思いつつ、今までにない状況だけに、戦々恐々でしたが、賑やかで冗談も飛び交い、あまりにも面白いのでつい脱線の畏にはまりつつ、個性豊かな彼らを見つくり見させてもらうことができました。そして彼らからも、たくさんの驚きと発見をもらい、私も勉強させてもらいました。

難しいかなあと思いつつ、今年のお題は、平和問題や環境問題について考えてもらいたくて、迷いましたがこのようなお題にしました。

一学期、二学期を通して、戦争と環境問題に触れてきました。平和学習では、幾つかの読み物を紹介し、第二次世界大戦のことに触れました。そして「なぜ戦争が起きるのか？」という基本的なことを考えてもらいました。その後、それに関連して、原子爆弾、放射能、今も日本で解決していない福島の問題などにも触れました。三学期は、身近な大人が感じている平和問題や環境問題の意見や考えを知ってもらうべく、インタビューを保護者室に行きました。

当然の事ながら楽しい話題ではないのですが、だからこそ教えて教室という場で知っておいてもらいたい、伝えたい事だと思えました。大人でも考えるのは難しい内容です。でも彼らのまっすぐな目だからこそ見えること、言えることがあります。今すぐ自分の考えや意見を言える人は少ないですが、今の自分から見た世の中、地球で起こっていることに目を向けてもらいたかったです。特に世界の別の場所で、同じくらいの歳の罪のない子供たちが、この理不尽な戦争や環境に巻き込まれていることに少しで心を馳せてもらえたらと思いました。

戦争を起こさないこと、戦争がないということ、平和であり続けることがどれだけ大事なことが、それは大人にならないと分からないかもしれません。原子力発電がいかに危険かというの、日本が身をもって体験し、それでもまだ依存しているおかしな現実にも将来気づいて欲しいです。おかしなことをおかしいと堂々と言える人、そういう人が一人でも増えることが世の中を変えることだとも思っています。

蝶はさなぎにならないと、蝶にはなれない……。何かが自分の思い通りにならないもどかしさ、そういうのを感じながら少しずつ子供は大人になっていきます。でも今の本人にはなかなかそのさなぎの時期をどう過ごしたらいいのか分かりづらいものです。勉強だけではなく、たくさんの人間関係や失敗の中から学び、徐々に成長するのが人間です。このお題のことも、今は分からなくても、いつか気がついてくれたらいいなと。そんな記憶の置き土産として、この文集を読み返すことが来ることを願っています。

最後にこの場を借りまして、改めて保護者の皆様にお礼申し上げます。毎年保護者の皆様の多大な協力と努力により、センターが運営されています。行事の企画、運営等、いつもありがとうございます。当たり前のように動いているのも、皆様の尽力によるものです。感謝に尽きます。皆様のおかげで私は教員として楽しく教壇に立ち、児童のキラキラした笑顔が自分への褒美となっています。このような言葉だけでは言い尽くせませんが、本当にありがとうございます。次年度もまた宜しくお願いたします。

地球のために、ぼくができること

児童五 飯田優太

ぼくは、地球のかんきょう問題をかい決

するために、ぼくたち子供でもできることを

考えてみました。

一つ目はゴミをへらすことです。買い物を

する時に、ふくろをもらわないようにしたり、

必要のない物は買わないようにすることです。

二つ目は水や電気を大切に使うことです。

手をあらう時や歯をみがく時、こまめに水を

止めてムダ使いをしないようにします。

人のいらない部屋は電気を消すように、使っ

ていないおもちゃの電源も消し忘れないように

します。

三つ目はゴミの分別をすることです。紙や

プラスチック、缶はリサイクルします。生

ゴミはゴミポストして、再利用します。

四つ目は車をなるべく使わずに、歩いて行

ける場所なら歩いて行く。もしくは、電車や

バスをのぞけるだけ使うようにする。はりが

スガへるので、空気も少しきれいになると思
います。

このように、ぼくたち一人一人でも

地球のために色々なことが出来ます。今、気
をつけたいと地球に人間が住めなくなっ
ても、まうかもしれません。だから、みなさんも考
えて行動してみてください。

未来の地球のためにできること

川島 ツエームス

ぼくは、未来の地球がきれいな環境であ
ってほしいとおもいます。

たけ

ぼくは、出来るリサイクルしたいとおも
います。

たとえは、最近見たニュースでは「205
0年までに海には、魚よりプラスチック
の量が多くなる」と言う記事がでてしました。
プラスチックやアルミカンなどの金属もリ
サイクルをすることで資源を有効利用し、ま
た環境にもやさしく出来るとおもいます。

20×20

未来のちま^やうのため^にできること^レ
 ぼくは、未来のちま^やうはま^れいなちま^や
 うにな^ってほ^いいと鬼^います。お^おやみど^りか
 たくお^おこ^こ川^や海^の水^がま^れいな^しぜん
 の^のこ^るちま^やう^ごす。でも、今^のちま^やう
 は^まご^みやかんま^やう^のもん^だい^がたくお^おあ
 ります。そこ^で、ぼくは未来のちま^やう^のた
 め^に今^の自分^にできることをかん^がえ^てま
 した。
 まず、はじめにご^みをへ^らすようにしたい
 と鬼^います。今、ぼくの家^では紙^やプ^ラス^チ
 ンク^なご^は、ゼ^ンポ^リサイ^クル^に出^していま
 す。それ^から、生^ごみ^はコン^ポス^トに^して、
 花^のひ^りやう^につか^います。これ^でご^みの^り
 ぶ^らが^なり^へります。つぎ^に、ぼくの家^に
 は車^があり^ません。だから、ぼくの家^ぎく^は
 みんな自^てん車^かバス、メ^トロ^をなる^べく^つ
 がう^えう^にして^います。車^は、は^い気^がす^ち
 出^してかん^まう^にわる^いか^らです。でも自

松尾 魁

てん車はほり気がスモ出なひし、体にモいい
 と思います。ソサイクルやコンピュータ、自
 己車をつかうことは、もうぼくの家ぞくがモ
 うか、ているので、ぼくもいりアイデアだと
 思います。

かんまよりの間だいはかんだんな間だいで
 はあります。ぼく一人がリサイクルやコン
 ポストをかたばつとも何ぞか知りませぬで
 もみんなかたばつたらちまううはまっせよくな
 ると思えます。未来のちまううはまれいであ
 ってほしいと思えます。

おわり

未来の地球を支えよう
 児童五ルキマアステイン
 ぼくは今の地球でおこっている環境や平和
 問題について考えてみました。現在の問題を
 このまま放っておくといつか地球は消滅して
 しまいかもしれません。それを防ぐためにお
 すがしいけどなくてはいけない解決方法が
 あ。この今分りみな様にその解決方法を説明し
 たいと思います。これをさちんと読んでくれ
 て他の人たちにも教えて世界中でこの方法で
 未来の地球を明るく自然たくさんの平和な
 世界にしましょう。

まずは、環境問題の解決法から説明して行
 きましょう。ぼくの最初の思いつきは自動車
 のガソリンです。車の動力のガソリンは使う
 量を減らすことです。その理由はガソリンは
 限られていて自然やオゾン層にも悪いので使
 用しない方がいいと思います。代替りの車、

20x20

ハイブリッドや電気自動車を使って行ければいいと思います。これを思いついたとき、かけはぼくのチャレンジの教材で車のことについて勉強したからです。

次は原子力の問題です。原子力発電所が爆発すること原はくとい。て原はつという病気が来ります。原子力よりも他の方法で電気を発電すればいいと思います。これは数か月前に日本語センターで学習しました。

次はゴミについての問題の解決方法です。靴や服などを使えなくなると捨てる人はいます。すが拾ないで他の人にあげることをリユース。水をあんまりペットボトルから飲まないこと。でペットボトルをリデュースでき、最後に一番知られる紙をゴミ箱いなくリサイクル。箱に入れてリサイクルできます。このように物を大切に使う。ここが人間のできるすばらしい地球の救い方です。

最後にもう一つの環境問題、自然の少さです。今、世界中で人口が増えている。自然が少なくなると行き、住宅が増えて行きます。このままだと木などがなくなると酸素がなくなると人類が消滅します。だから緑をと。自分の二倍を植えましょう。

次に、平和問題の説明をしようと思います。まずは、戦争の話です。戦争は平和の大反対です。これを止めるには世界中の国々と心を分かちあえなければいけません。だから国と国と仲良くして貿易をとり合わせればいいと思います。これで世界中仲良くできればいいと思います。これを思っていた理由はほくは戦争を見たくも聞きたくもない多分みんなもそうだろうなと思います。だからだと思いません。

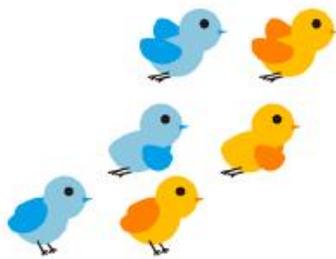
最後の問題は固定観念、もしくはステレオタイプです。このステレオタイプという物は

勝手に人の体格、性格などを決める言葉です。
 例ば、アメリカ人はみんな太くてるなとが
 あります。そういう物があるとみんなきらわれ
 物になる可能性だてあるんです。だがらこ
 ういうのも身近にたくさんあります。むずか
 しいかもしれませんが止めようとしてみま
 しょう。

ぼくの思いつきは全て書きました。ぼくはこ
 の取り組を多くの人に取り組んで世界を平和
 に、そして緑を豊かにして行きたいです。



児童部 6
江本 昌子 先生



一年を振り返って

児童6 江本昌子

『学級目標は、仲がよくて楽しくて、思いやりのあるクラスです！』こんな学級目標を以前耳にしたことがあるのですが、まさにそれがぴたりと当てはまるなどというものが、このクラスの第一印象でした。例えば本読みの時間、読み方の分からない漢字が出てきたら、周りの友達教えてくれる、また、課題の答えを見つけたら、自分の答えを友達と共有し教え合える、こういったことが自然にできる生徒たちです。授業が進むにつれて、とても勉強熱心だということも分かりました。どんな課題にも積極的に取り組み、生徒たち仲がよく、みんなで協力して助け合うことができるクラス、これが今年度の児童6です。

今まで学んできた日本語を使って、どうやったら楽しく勉強ができるか、今年も考えました。グループワークで作業をし、各グループまとまったことを発表するという機会を多く設けました。敬語を使ったロールプレイや、何かになりきって詩を書いたときなどは、生徒たちの発想力、豊富な語彙力に驚きしました。それから今年度は日本語の勉強に、少し算数を取り入れてみました。「さあ、今日は算数の授業をしましょう。」みんなの顔色が変わりました。反応はさまざままで面白かったです。黒板いっぱいグラフや表をかいたり、図形の面積を求めたり、大きい数の読み方は覚えるのが大変でしたが、みなさんよ頑張りました。

授業終了まで少し時間があるときは、算数パズルやクイズをしました。特に算数パズルは気に入ってくれたようで、真剣です。「十二時になりました。みんな、帰ろうよ。」「……」答えを見つけるまでは帰らないそうです。すごい集中力です。「じゃあ、帰りのあいさつだけでもしましょう。日直さん、お願いします。」「起立、礼、さようなら！」「着席！」保護者のみなさまには、大変ご迷惑をおかけしました。

発表会について、みんなで話し合って決めていくということ、かなり早い時期から発表会の話をしました。みんなで相談して決めるというのは、自分の意見をはっきりと言わなくてはなりません。すごく難しい場合もあります。「もう先生が決めてー！」という言葉も途中で出てきました。でも、最終的にクラスがまとまってアイデアを出し合い、演目を決め、シナリオを作り上げることができました。今は発表会にむけて、劇の練習に一生懸命取り組んでいます。

文集のテーマは、今年度も自由課題です。自分たちの好きなこと、思い出、将来の夢などを書いてもらいました。それぞれの個性が出ていて、素晴らしい作品に仕上がっています。

最後になりましたが、保護者のみなさまにはたくさんのご協力、ご家庭でのサポートをしていただき、本当にありがとうございました。一年間お子さん達とよい時間を過ごせたのも、皆様の支えがあったからこそ、心より感謝しております。それから役員さん方、同僚の先生方、今年も大変お世話になり、ありがとうございました。

2 枚目

て	り	る	「	れ	ギ		と	も	コ	妹	は		た	か	ギ	ん	本	牛	肉	十	毎
し	も	ほ	ま	な	か	ギ	キ	し	は	妹	お	ギ	ら	ナ	が	当	肉	ほ	コ	日	
か	く	で	で	が	ナ	ナ	ち	ろ	齒	は	リ	ナ		コ	に	て	す	の	お		
た	家	に	に	ろ	家	コ	コ	て	い	を	ギ	ま	コ	半	が	大	食	ゴ	た	母	
が	族	と	は	へ	は	は	か	い	音	出	ナ	せ	と	分	ぎ	い	は	カ	お		
お	の	み	来	甘	ま	い	る	を	し	コ	ん	さ	に	か	な	し	ん	し	ん		
り	買	た	や	た	る	え	ま	出	か	し	ま	に	ら	セ	カ	み	ソ	ん	を	ち	は
ま	ご	ら	や	い	と	ん	え	し	ら	こ	ナ	ち	ち	お	つ	し	ほ	ま	ラ	夕	
せ	す	キ	ま	な	ぼ	ん	ま	い	よ				て	い	セ	う	せ	イ	飯		
ん	ナ	せ	顔	お	う	ほ	す	妹	ま	か	ん		て	い	だ	て	ス	と	を		
と	コ	ん	を	な	う	は	す	グ	い	は			一	は	ジ	た	を	食	作		
て	は	し	か	い	で			い	出				口	な	を	の	大	食	べ	る	
も		ま	を	う	す	キ	お	グ	し	な			ぞ	す	お	は	に	べ	物	と	
か	ペ	す	出	の		ナ	も	し	て	か			食	な	と	本	る	を	き		
お	ッ	し	は			コ	し	し		よ			べ	か	し	お	げ	日	作	に	
い	ト	な	て			に	ろ	と	キ	し			ま	て	母	ま	は	く			
ん	よ	で	だ			も	い	お	ナ	て			し	た	さ	す		で	ギ		

か	自	で	取	「	気	た	り	人	う	よ	こ	発	工	暖				
ら	か	こ	れ	ク	じ	め	温	オ	化	し	く	生	場	温	化	ほ		
始	た	れ	る	も	ど	に	暖	る	し	た	の	地	れ	暖	に	く		
め	ち	ん	や	も	う	、	化	こ	た	り	こ	球	ら	ら	化	つ	は	地
ま	で	上	さ	車	ぼ	を	と	り	、	お	の	の	ガ	の	の	い	今	地球
せ	で	温	い	と	を	く	ほ	な	地	畜	り	へ	ガ	ス	は	原	乙	板
ん	き	暖	を	い	利	た	う	じ	球	物	グ	ん	ス	な	い	因	話	橋
か	る	化	買	ヤ	用	ち	止	で	の	の	と	化	に	ど	気	に	し	暖
？	こ	を	イ	す	で	す	す	さ	さ	生	け	は	よ	ガ	ガ	は	た	化
	と	進	た	ク	る	き	る	。ば	た	て	一	、	あ	ス	車	い	、	テ
	を	め	い	ル	こ	る		く	い	海	北	こ	り	、	の	と	て	イ
	今	な	す	し	と	こ		化	系	め	き	あ	ま	ク	は	思	い	ワ
	日	い	る	た	、	と		が	ガ	ん	の	す	、	ラ	い	い	る	
		た	こ	り	ア	は		が	大	ガ	く		。ラ	気	ま	地		
		め	と	地	ラ	、		す	ぎ	上	と		、	ガ	す	球		
		に	な	元	ス	で		ん	く	し	南		ガ	ス	。の			
		、	と	で	テ	人		だ	へ	、	き		ら	、	温			

作文について

いっは、僕は作文を書くことが大の苦手で
す。

なぜ書きかと言った、何を書くか分からない

いからります。今回も、何日も前から何を書け

ばいいのが考えたいのですが、特に書き

たいこともなく、言いたいこともないの

結局こんなことを書いています。だいたい日

本語を話すことはできるけれど、これがないに

話あことは苦手だし、きちんとした日本語で

文を書くようになる、かなり難しいです。

そろそろおかげで作文の宿題は少ない方がうれ

しいのですか、やはりあった方が練習になる

のである方がいいです。

2016年
10月号
名前
岩本晃雄

一枚目

せ	答	ま	く	た	人	に	よ	き	入	ト	た	い	ま	え	て	ま	し	ろ	女			
ん	え	し	り	は	女	う	ぜ	は	の	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
。	ず	た	返	大	何	の	ぶ	っ	さ	大	ま	い	ん	の	り	ん	。	。	。	。	。	。
し	に	。	。	家	と	人	で	を	け	家	た	で	で	で	ま	で	し	付	が	話		
と	質	て	さ	か	に	す	し	び	さ	振	上	し	振	し	し	か	い	家	は			
あ	「	問	し	ん	目	そ	か	て	声	ん	り	る	た	り	た	た	し	て	に			
や	お	を	ま	は	を	う	？	し	を	が	返	と	返	。	。	。	。	。	。	。	。	。
ま	さ	し	。	。	覚	声	し	ま	上	立	ま	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
っ	あ	ま	た	な	ま	を	大	り	げ	。	と	足	パ	ま	っ	あ	を	い	と	し		
て	が	し	か	せ	し	か	家	ま	て	て	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
、	も	た	、	自	け	さ	し	い	そ	も	ト	た	ん	て	て	み	。	。	。	。	。	。
部	し	か	不	分	起	ま	ん	た	引	ま	こ	付	の	が	。	。	。	。	。	。	。	。
屋	て	、	思	を	さ	し	は	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
に	、	女	議	見	上	た	心	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
人	す	の	に	て	り	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
っ	み	人	思	引	ま	女	を	い	返	女	パ	ま	ん	も	聞	走	も	じ	か	す		
て	ま	は	い	っ	し	の	う	じ	り	の	い	し	を	い	こ	っ	。	。	。	。	。	。

と	く	?	く	も	ア	さ	も	あ	だ	い	は	と	と	が	で	叩	ア	が	た	ア	寝	行
	だ	一	な	だ	が	い	で	た	ろ	子	ま	も	音	あ	す	く	を		の	を	る	き
ド	サ	人	り	と	一	。	し	時	う	う	り	う	が	り	か	音	閉	外	か	叩	準	ま
ソ	い	で	ま	あ	回	し	た		と	ち	ま	一	し	ま	?	が	め	に		く	備	し
ド		し	し	か	た	と	り	思	思	に	せ	度	ま	せ	し	る	は	と	音	を	た	
ソ	し	た	た	ろ	た	言		い	い		ん	聞	し	ん	と	ま	と	だ	女	が	し	
ド	と	り		と	か	っ	ド	切	ま	こ	。	さ	た		声	し		あ	の	聞	て	女
ソ	言		っ		れ	て	ア	っ	し	あ	何	ま		も	を	た	ま	も	人	こ	い	の
ド	っ	ド	あ	あ	ま	み	を	て	た	は	度	し		し	か		た	い	は	え	た	人
ソ	て	ア	な	ま	し	ま	一		。	ゆ	か	た	ど	て	け	今	ト	ま	ド	ま	時	は
!	み	を	た	り	た	し	回	っ	ま	う	や	が	な	ま	ま	度	ン	せ	ア	り		一
と	ま	一	は	こ	。	た	た	あ	た	あ	り		た	た	し	は	ト	ん	を	た	ト	人
た	し	回	一	あ	相	。	た	な	ド	い	と	や	で		た		ン	で	開		ソ	暮
く	た	た	人	く	手	す	い	た	ア	が	り	は	す	ト	が		と	し	け	誰	ト	ダ
さ		た	で	感	が	る	て	が	を	来	と	り	か	ソ		ど	ド	た	ま	か	ソ	し
ん	す	い	す	じ	子	と	く	子	叩	た	し	返	?	ト	返	な	ア		し	が	と	で
ド	ろ	て	か	な	と	ド	た	と	か	の	て	事	し	ソ	事	た	を	ド	た	来	ダ	す。

一枚目

を	す	何	ホ	の	口	色	ゴ	マ	ん	は	=	で	と	名	社	は	代	ん	き			
夏	ぐ	ど	ナ	あ	い	々	ロ	ト	の	、	緒	す	ま	前	貞	、	さ	が	ま	私		
休	ほ	モ	ラ	ば	ん	ふ	ッ	、	畑	畑	に	。あ	は	で	介	ん	え	し	の			
み	え	こ	ニ	あ	げ	野	コ	ピ	の	で	住	科	く	、	す	ゴ	と	人	た	お	私	
中	ま	ち	ア	さ	ん	菜	リ	ー	野	野	ん	の	ん	ゆ	。土	佳	い	。母	の			
に	す	レ	ソ	ん	の	が	ー	マ	菜	菜	で	あ	で	う	私	で	ろ	天	私	さ	日	
毎	。こ	で	は	夫	あ	、ソ	は	作	り	い	じ	す	か	は	す	さ	す	の	ん	本		
日	私	レ	知	、	ふ	リ	干	、	、	り	ま	り	。、	、	。ん	。あ	は	貝	の			
や	は	ま	前	犬	り	ま	口	人	き	を	す	さ	み	ふ	4	佳	で	私	女	、童	家	
り	、い	は	を	が	す	ッ	参	ゆ	し	。ん	ん	う	人	子	す	の	さ	日	六	ぞ		
ま	ジ	王	、か	大	。コ	、	う	ま	私	と	な	か	い	お	。あ	ん	本	く				
し	ヨ	す	ジ	、好	私	い	い	り	す	の	あ	、	と	ば	私	ば	に	の	福			
た	ソ	。ヨ	て	き	は	ん	モ	か	。あ	ば	私	な	こ	さ	代	さ	は	長	本			
。の	そ	ソ	い	で	、	げ	、	か	あ	じ	あ	よ	な	が	ん	お	ん	、野				
こ	さ	し	で	ま	す	毛	ん	あ	す	び	い	さ	り	ち	い	は	ば	は	お	県	梨	
た	ん	て	す	す	。口	か	ぎ	、	り	さ	ん	年	や	ま	、	さ	、	姉	か	阿		
が	歩	、	。お	私	ッ	ど	、	人	さん	が	上	ん	す	会	ん	和	さ	り	帯			

二

																						私
																						の
																						日
																						本
																						の
																						家
																						ご
																						く
																						で
																						す
																						。

1 枚目

ら	ト	で	レ	に	コ	ー	レ	ス	ワ	の	て	た	カ	か	な	る	す	ぼ				
な	か	は	し	よ	し	番	し	ぼ	を	イ	で	い	カ	オ	知	さ	だ	。	く	み		
い	あ	ト	る	し	好	ト	く	使	ト	チ	て	カ	の	っ	ん	け	あ	の	な		チ	
け	る	カ	が	と	ト	き	の	は	っ	チ	ヨ	ま	オ	種	て	は	ご	あ	好	さ	ヨ	
ど	そ	し	あ	か	ご	中	て	ヨ	コ	す	マ	子	い	な	よ	き	ん				コ	
う	し	る	韓	好	す	ご	た	い	コ	レ	。	ス	を	ま	ぜ	だ	チ	な	の		レ	
い	で	味	そ	国	き	。	も	く	な	し	こ	と	発	す	チ	れ	ヨ	食	好		ト	
つ	す	や	う	に	で	み	ミ	さ	い	ト	の	い	こ	か	ヨ	が	コ	ベ	き		ト	
か	。	イ	で	は	す	な	ル	ん	の	ト	は	カ	う	う	?	コ	出	レ	物	な		
味	お	カ	す	キ	か	さ	ク	種	で	は	茶	カ	も	し	チ	レ	て	し	食			
見	い	味	。	ム	?	ん	チ	類	白	色	オ	の	て	ヨ	し	き	ト	チ	ベ			
を	し	の	ま	チ	調	は	ヨ	の	い	こ	い	マ	を	。	コ	ト	て	の	ヨ	物		
しい	チ	た	味	べ	ど	コ	あ	の	の	の	ス	主	ロ	レ	が	し	コ	コ	は	山		
こ	か	。	の	た	ん	し	る	で	カ	で	が	原	。	。	茶	ま	と	レ	何	本		
み	は	コ	他	チ	と	な	し	チ	す	カ	す	茶	料	ス	ト	色	う	を	し	で		
た	分	レ	の	ヨ	コ	チ	ト	ヨ	。	オ	。	色	と	ト	は	い	!	考	ト	す	大	
い	か	。	国	コ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

回	ッ	イ	の	て	い	た	ら	か	べ	て	す	豚	フ	言	ま	の	楽	そ				
転	チ	ス	仕	い	る	し	ら	ル	い	ま	で	も	か	な	田	々	聞	で	た			
し	で	ク	事	る	人	そ	コ	レ	と	ま	で	も	か	な	田	々	聞	で	た			レ
ます	す	の	を	人	も	れ	コ	言	せ	も	を	豚	発	い	は	い	今	し				コ
す	直	し	た	い	で	ド	コ	言	ん	し	使	の	明	レ	デ	レ	テ	回	は			コ
	あ	怪	て	ろ	ま	ち	ド	名	で	コ	モ	ビ	コ	イ	コ	い						ド
ぼ	と	は	い	は	す	今	コ	が	前	し	て	を	ラ	ス	イ	た	ぼ	音				の
く	し	十	る	ほ	で	し	で	の	た	ド	音	使	イ	ド	ク	ド	の	く	楽			発
は	コ	五	人	と	そ	も	た	き	人	は	楽	ツ	は	に	を	か	は	が				明
い	一	セ	た	ん	の	し	け	ま	が	そ	を	て	板	レ	記	使	気	昔	と			
っ	ド	ッ	ち	ど	し	コ	進	し	雷	こ	ま	記	い	と	オ	録	に	は	て			ム
か	は	チ	で	音	コ	一	化	た	話	で	た	録	ま	ッ	さ	て	な	ど	も			レ
そ	一	か	す	楽	ド	を	と	あ	を	グ	全	せ	た	オ	コ	聞	の	ま	や	さ		イ
の	分	ら		か	ド	を	と	あ	を	グ	全	せ	た	オ	コ	聞	の	ま	や	さ		テ
し	間	三	黒	ん	を	使	げ	の	発	し	に	て		ノ	ッ	リ	音	す	で			イ
コ	に	十	回	け	使	っ	ま	時	し	明	フ	で	い	そ	グ	ト	て	楽	て	す		道
一	三	セ	デ	り	っ	て	し	か	て	ム	さ	ま	の	ラ	と	い	を	昔	音			道



中 高 等 部



中高等部 1
松田 智子 先生

う	し	い	を	業	た	し	表	入	授	と		日	等	ん	に	と			
な	た	よ	投	の	の	た	情	し	業	ば	一	が	部	で	は	し			
物	。	う	げ	中	で	。	は	て	の	か	学	、	1	い	あ	て			
事	そ	に	か	で	、	と	、	く	初	り	期	つ	ク	き	っ	い			
を	の	し	け	も	生	に	戸	だ	日	で	は	い	ラ	て	と	い			
手	情	て	、	で	徒	か	惑	さ	、	、	、	こ	の	い	間				
探	報	、	返	き	一	、	い	い	突	毎	生	の	教	ら	に				
り	を	情	つ	る	人	何	を	と	然	回	徒	の	室	、	一				
で	も	報	て	だ	一	も	隠	と	「	の	も	で	、	体					
選	と	収	く	け	人	知	せ	渡	自	授	私	、	生	ど					
び	に	集	る	い	の	ら	ず	さ	己	業	も	徒	、	れ					
、	、	に	返	ろ	事	な	に	れ	紹	が	お	達	、	だ					
毎	生	あ	事	ん	が	方	困	た	介	緊	互	の	、	け					
回	徒	て	を	な	知	向	っ	時	の	張	い	前	初	の					
の	の	こ	聞	方	り	か	て	の	一	の	に	め	す	こ					
授	興	と	き	ら	た	ら	始	一	人	連	新	て	。初	と					
業	味	に	洩	さ	く	さ	ま	一	人	続	し	。初	が	が					
の	あ	し	ら	な	て	な	っ	人	人	で	い	中	私	う					
中	り	ま	さ	問	、	授	で	の	の	し	こ	高	こ						
で	そ																		

好	な	い	日		成	は	作	も	し	レ	て	課	か	か	こ	タ	て		楽
き	り	る	に	毎	功	な	業	い	た	ゼ	、	題	な	だ	と	イ	、		し
な	ま	と	生	回	だ	い	し	た	。	ン	パ	で	な	っ	っ	ミ	生	2	く
生	す	、	徒	の	っ	か	し	た	中	テ	ワ	あ	霧	た	に	ン	徒	学	学
徒	°	私	達	授	た	と	な	と	に	ー	っ	団	ク	重	グ	か	期	ん	
が	ク	自	が	業	と	思	が	思	は	シ	ポ	た	気	ラ	点	を	の	が	で
何	ラ	身	楽	や	思	い	ら	い	こ	ョ	イ	に	に	ス	を	発	始	も	ら
人	の	や	し	セ	っ	ま	学	ま	の	ン	ン	包	の	中	置	言	ま	ら	え
か	中	り	そ	ン	て	す	習	が	よ	を	を	ま	中	が	く	が	り	え	る
い	に	が	う	タ	い	が	し	お	う	授	使	れ	が	、	よ	言	よ	う	よ
る	は	い	に	ー	ま	互	た	互	な	業	い	ま	あ	あ	う	が	う	う	う
の	、	を	し	行	す	い	こ	い	経	参	、	し	っ	っ	に	増	く	に	努
で	絵	感	て	事	°	に	の	刺	験	観	グ	と	。特	あ	え	て	緊	め	ま
、	を	じ	い	を		激	試	し	が	の	ル	い	に	っ	き	ま	張	し	た
積	描	ら	る	通		合	み	合	な	機	ー	う	、夏	た	ま	も	解	た	°
極	く	れ	表	し		い	は	い	か	会	プ	間	休	°	し	解	れ	た	°
的	こ	、	情	て		、	結	、	っ	に	対	に	み	そ	た	れ	て	き	
に	と	励	を	、		日	果		た	行	抗	つ	の	の	°	て	き		
イ	が	み	見	に			大		生	い	プ	い			そ	き			
ラ		に	て						徒	ま					の				

20 × 20

7 枚目

事	語	ル	み	た	年	う	し	に	歌	い	に	ば	一	十		こ	
は	せ	な	取	ご	生	た	た	な	を	「	紹	い	年	一	ば		日
	ソ	も	い	す	は	い	〇	「	歌	は	ハ	あ	間	年	く	中	本
も	夕	の	な	〇		ま	三	た	い	い	し	る	に	間	は	高	語
「	一	ガ	ご	漢	あ	し	年	と	ま	絵	ま	の	ヤ	通		等	セ
と	ご	な	ご	字	ま	た	生	き	し	を	す	ご	「	「	日	部	ソ
お	こ	か	そ	テ	リ	〇	に	に	た	か	〇		た	こ	本	一	夕
も	れ	「	ん	ス	た	四	は	算	〇	い	ま	こ	事	い	語		一
し	か	た	な	ト	の	年	「	数	そ	こ	ず	こ	は	ま	セ	鈴	ご
ほ	ら	ご	に		し		桜	を	し	赤	三	ご	本	す	ソ	木	学
そ	に	す	ス	算	く	五	「	は	こ	ち	オ	み	当	〇	夕	カ	ん
う	し	〇	ペ	数	な	年	の	じ	ニ	「	の	な	に	そ	一	ミ	だ
な	た	日	ソ	と	か	と	歌	め	年	ん	時	さ	い	の	に	一	こ
ト	い	本	ヤ	読	「	六	を	ま	生	の		ん	「	十	は	口	こ

□ 枚目

思	い	と	し		た	し	で	ほ	い	を	も	く	く				
い	は	は	ツ	今	。	た	、	た	て	見	が	さ	さ	昨			
ま	い	そ	ヨ	年		。	南	。	プ	ま	ぶ	ん	ん	年			
す	今	ん	ソ	は		ほ	景	そ	レ	し	た	読	な				
	や	い	を	セ		ん	の	も	ゼ	た	の	ん	ら	セ			
		に	も	ソ		と	プ	て	ソ		と	た	ソ				
	て	や	ッ	夕		う	レ	、	テ	ば	も	。	て	夕			
	る	リ	と	し		に	ゼ	ク	し	く	だ	み	、	し			
	こ	た	や	ご		お	ソ	ラ	ソ	は	ち	え	ぶ	ご			
	と	い	リ	プ		も	テ	ス	ヨ	奈	に	い	し	か			な
	で	こ	た	レ		し	ヨ	の	ソ	良	な	か	よ	ん			か
	い	と	り	ゼ		ろ	ソ	男	を	景	る		う	じ			い
	い	が	。	ソ		が	を	の	し	に	映	子	を	を			る
	と	か	あ	テ		ッ		子	集	つ	画	ど	た	た			か

す	で	癸	つ	た	一	二	ま	の	°	ス	ガ	の	こ	じ			
°	す	表	い	ら	プ	つ	し	県	例	で	し	文	と	い	今		セ
	°	す	て	男	ご	の	た	を	え	は	い	章	、	ガ	年		ン
で	る	調	子	と	グ	°	し	ば	色	か	を	漢	°	の		タ	
も	の	ベ	グ	に	ル	そ	ら	、	々	°	読	字	た	日		一	
	°	ガ	た	ル	癸	一	の	ベ	夏	な	た	お	を	で	本	中	で
た	お	り	一	表	プ	後	て	休	こ	で	こ	読	す	語	高	の	
の	ず	日	プ	し	に	ク	み	と	す	°	と	お	°	学	一	日	
も	ガ	本	は	ま	分	女	ラ	に	を	°	は	こ	日	習		本	
い	し	語	、	し	ガ	子	ス	自	学	で	ど	と	本	は	福	語	
ガ	い	を	静	た	れ	と	で	分	び	も	全	、	語	、	本	学	
°	°	カ	使	岡	°	て	男	癸	の	ま	、	て	日	で	お	習	
た	°	°	県	ぼ	グ	子	表	出	し	ク	お	本	語	ず	梨		
で	た	て	に	く	ル	で	し	身	た	ラ	ず	語	す	ガ	梨		

の	く	の	あ	漢	う	本	話	た	と	行	つ	友	で			え	今
で	て	学	り	字	ず	語	す	。	日	つ	た	達	面	今		つ	年
い		校	ま	テ	に	を	よ	家	本	た	で	と	白	日		て	1
つ	時	の	せ	ス	な	話	う	で	語	と	す	日	い	年		、	年
も	間	べ	ん	ト	っ	す	に	は	の	き		本	記	は		来	の
い	か	ん	で	は	た	の	が	母	い		今	語	事	日		年	日
そ	あ	き	し	あ	と	は	ん	と	い	お	日	で	を	本		の	本
い	ん	よ	た	ん	思	ま	ば	い	練	ば	年	喋	沢	語		抱	語
で	ま	う	。	ま	い	え	り	つ	習	さ	の	る	山	学	ブ	負	学
宿	り	か	フ	り	ま	よ	ま	も	に	ん	夏	の	読	校	フ		習
題	な	い	ラ	好	す	り	し	日	な	と	に	が	み	の	ア		を
を	か	そ	ン	き	。	も	た	本	り	い	日	榮	ま	ク	1		ふ
し	っ	か	ス	で	で	い	。	語	ま	と	本	し	し	ラ	直		り
て	た	し	語	は	も	よ	日	で	し	こ	に	か	た	ス	美		か

枚目

											で	ス	と	の	す	日	い
											見	て	思	映	こ	本	ま
											れ	映	い	画	と	語	七
											た	画	ま	や	こ	の	た
											ら	や	す	ド	す	ボ	。
											い	テ	。	ラ	。	キ	2
											い	レ	セ	マ	た	ヤ	0
											な	ビ	ン	を	と	ブ	1
											と	番	タ	も	え	ラ	6
											思	組	1	っ	ば	リ	年
											い	を	こ	と	、	1	の
											ま	み	も	見	日	も	目
											す	ん	ク	よ	本	ふ	標
											。	な	ラ	う	語	や	は

日	見	に		言	な	で	聞		の	は	て								
本	た	行	そ	葉	ト	頑	い	そ	で	日	い	今							今
人	り	き	れ	が	ラ	張	た	の		本	る	年							年
と		ま	し	た	マ	る	り	た	上	語	ん								一
話	標	し		く	を	よ		め	手	が	な	日							年
あ	識	た	私	さ	見	う	宿	家	に	あ	事	本		ア			え	日	
こ	や		今	ん	た	に	題	で	な	ま	を	語		イ			て	本	
と	看	そ	年	増	お	し	も	も	り	り	や	学		ア			て	語	
も	板	こ	の	え	か	ま	な		た	得	り	習		ス				学	
で	を	の	夏	て	げ	し	る	と	か	意	ま	に		伊			来	習	
き	読	テ	に	き	で	た	べ	日		で	し	振		藤			年	を	
ま	ん	レ		ま	分		く	本	た	は	た	り					の	振	
し	だ	ビ	日	し	か	色	一	語	で	な		替		弓			抱	り	
た	り	を	本	た	る	ん	人	を	す	い	私	え					負	替	

						張		で	ラ	し	来	で	る	漢		た	そ
						り	来	す	ス	た	年	も	漢	字	ま	。	れ
						た	年	。	で	い	は	、	字	テ	た		か
						い	も		日	と	、	私	も	入	、		少
						と	日		本	思	ぜ	は	増	ト	日		し
						思	本		の	い	ひ	書	え	を	本		で
						い	語		映	ま	も	く	て	続	語		も
						ま	を		画	す	、	の	き	け	セ		勉
						す	精		も	。	と	が	ま	た	ン		強
						。	い		見	そ	書	苦	し	事	タ		に
						、			て	れ	く	手	た	で	、		な
						は	。		み	と	練	な	。	、	で		り
						い			た	、	習	の	そ	読	や		ま
						頑			い	ク	を	で	れ	め	る		し

1 枚目

む	る	色	プ	は	た	発	ル	い	ワ	に	も	な	今		え	今
々	か	々	リ	ち	い	表	て	け	一	面	こ	年			年	
	ら	な	ソ	び	け	し	発	な	ポ	一	白	と	は		て	一
煙	で	慣	と	ま	ん	に	表	に	イ	つ	か	が	色	ム		年
に	す	用	び	る	に	こ	々	な	時	ソ	目	有	々	レ	来	の
巻		句	す	子	な	と		で	ト	は	に	り	な	イ	年	日
く	た	を		ち	り	な	日	て	し	で	男	の	ま	こ	テ	の
モ	と	知	な	マ	か	本	パ	に	発	と	が	し	と	イ	抱	語
小	費	え	る	せ	ん	し	の	ソ	表	女	三	に	を		負	学
用	ば	こ	か	の	に	に	県	コ	し	に	つ		し	り		習
句	雲	と	と	慣	か	に	ソ	今	な	別	あ	そ	に			を
で	を	が	い	用	二	ら	つ	ま	け	れ	り	の	り	う		ふ
す	つ	び	る	句	つ	良	い	つ	で	れ	て	ま	中	色	々	り
	か	き	と	の	目	い	て	か	グ	は	パ	し	で	々		か

						す	理	年	え	で	も	す	色	時	読	な	三
							科	は	る	す	あ		マ	に	む	い	っ
							も	国	の		り	も	な	は	物	よ	目
							や	語	に	な	ま	ち	こ	日	の	う	は
								な	苦	げ	す	ろ	と	本	な	で	良
							て	け	勞	が		ん	に	の	い	す	く
							行	で	す	と	そ	ぼ	つ	文	よ		ク
							き	は	る	い	れ	く	い	化	う	い	ラ
							た	な	か	う	は	に	て	や	が	つ	ス
							い	く	ら	と	漢	も	読		面	も	で
							と	算	で	そ	字	兼	ん	歴	白	ク	読
							思	数	す	れ	テ	い	で	史	い	ラ	む
							い	や		は	ス	な	い	な	で	ス	物
							ま		来	覚	ト	物	ま	ど	す	で	の

加	僕	驚	行	の		と	ク	き	の	事	が	白	た			り	
し	の	く	く	プ	二	知	ラ	な	事	を	リ	か	。	去		か	「
こ	お	ほ	事	ロ	千	る	ス	ス	を	読	君	。	何	年		え	今
と	兄	ど	ど	ダ	十	二	メ	ホ	調	み	の	た	時	は		。	年
。	ち	の	す	ラ	六	と	し	し	べ	ま	ア	で	も	と		こ	一
こ	。	文	。	ム	年	が	ト	ツ	こ	し	イ	す	新	。		。	年
も	ん	章	た	に	の	出	の	の	発	た	ス	。	し	て		来	の
楽	も	を	く	参	目	来	人	事	表	。	キ	た	い	も	山	年	日
し	ジ	書	さ	加	標	ま	の	も	し	又	。	。	事	楽	城	の	本
か	。	き	ん	し	は	し	事	話	ま	。	。	え	を	し		柗	語
。	イ	た	頑	こ	ジ	た	も	し	し	都	デ	ば	し	い	丈	負	学
た	カ	い	張	日	。	。	。	ま	た	道	。	。	こ	年	恵	し	習
と	に	で	。	本	イ		も	し	。	府	。	。	。	。	琉		を
言	参	す	こ	に	カ		。	た	好	県	の	り	面	し			ふ

草	か	ば	に	は	か	楽	と	も	勉	甲				ふ			
を	い	の	の	後	で	し	あ	う	強	先	今			り			
食	の	の	み	は	書	い	ざ	す	し	生	年			か			
る	な	よ	べ	て	ん	い	と	の	ぐ	ま	と	は		え	今		
の	せ	う	ビ	あ	な	私	て	思	勉	あ	し	い			年		
?	お	に	い	で	か	あ	強	わ	た	る	日		ウ	て	一		
し	こ	作	ス	た	読	楽	た	た	る	い	本		ド		年		
は	は	夕	記	ん	し	た	理	し	時	例	る	語		ン	来	の	
と	て	一	事	だ	い	か	由	て	ぐ	え		セ			年	日	
く	と	い	う	で	お	と	ら	は	い	ら	ば	楽	ン		マ	の	本
に	き	る	一	す	話	思	で	例	ま	い		し	夕		リ	抱	語
お	ど	か	メ		や	す	か	し	は	授	い	一		シ	負	学	
も	き		ン	例	新	た		ま	た		業	事	で		ア		習
し		と	は	え	聞	事		ん		こ	か	を	松				を

		思	、	そ	も	た	で	ち	ん	字	思	漢		た	て	か	る
		い	書	れ	、	ら	調	か	は	せ	い	字	そ	い	お	ら	い
		ま	く	で	と	、	べ	ら	り	も	ま	を	の	ご	も	も	と
		す	こ	、	覚	漢	よ	な	た	、	す	覚	た	す	し	、	思
		。と	漢	え	字	う	い	い	と	。え	め	。る	イ	い			
		も	字	ら	の	と	漢	で	覚	た	る	に		い	ん	ま	
		か	か	れ	意	思	字	す	え	か	ひ	は		記	タ	し	
		ん	読	る	味	い	を	。ら	ら	つ	、			事	一	た	
		た	み	と	か	ま	ち	こ	れ	、よ	私			を	ネ	。	
		ん	や	思	お	す	、	れ	る	来	う	は		読	”	だ	
		に	す	い	か	。ん	か	よ	年	か	、			み	ト	か	
		な	く	ま	、	そ	と	ら	う	は	あ	も		つ	で	ら	
		る	な	す	て	う	辞	は	に	、	る	、		づ	調	こ	
		と	り	。	、	し	書	、	か	漢	と	と		け	べ	れ	

お	れ	る	ま	す	見	た	っ	い	も	れ	の	一			え	
話	て	ま	し	ク	ほ	も			の	は	け	番	今			
を	ち	で	た	お	ラ	か		女	し	ど	な	い	あ	年	て	今
読	が	し	話	ス	に	子	よ	あ	か	ま	ま	の				年
だ	え	た	を	に	に	と	に		い	ん	だ	日		来	の	年
あ	お	の	合	お	ま	い	や	た	計	を		本		年	日	本
と	話	女	絵	う	話	だ		り	ま	算	し	た	語		の	本
幼	を	子	体	絵	を		し	ま	に	し	た	こ	の	抱	語	学
見	読	と	も	読	た		よ	し	は	ま	こ	と	べ	大	負	学
ク	お	男	三	書	ん	こ		に	た	が	の	と	は	人	道	習
ラ	ま	子	人	い	だ	と		が		ル	答	で	ま	ま	太	を
ス	し	に	の	て	こ	は		り	私	を	あ	ん	あ	南		ふ
に	た	お	雪	み	と			ま	は	づ	だ		う	糸	者	り
な	か	た	せ	で	幼			し	い	で	あ	そ	う	で		か

												い	*		と	し	い
												こ	う		こ	た	よ
												す	を	こ	た	う	
												。	す	れ	え	み	に
												こ	が	ま	ん	つ	
												し	ら	し	な	い	
												す	も	た	し	て	
												っ	日	。	っ	し	
												で	本		も	つ	
												も	語		ん	ち	
												っ	の		に	ん	
												づ	べ		ち	を	
												け	ん		。	し	
												た	き		ん	ま	

1 枚目

か	文	分	題	読	し	よ	と	科	土	生	いた						
し	章	で	で	め	た	う	え	書	曜	の	先	今					
い	を	文	漢	な	ふ	ば	の	日	名	生	新	年			ふ	今	年
と	書	章	字	い	話		中	は	前	に	し	は			り	年	一
思	く	を	練	漢	を	た	新	の	づ	は	な	い			か	一	年
い	時	作	習	字	好	い	し	話	り	松	り	友	中		え	年	の
ま	は	り	ノ	が	き	じ	い	を	一	田	ま	達	高				の
す		ま	一	あ	だ	よ	友	読	ト	先	し	が	等		て	日	本
	と	す	ト	り	け	う	達	み	か	生	た	で	一	土			本
な	き		の	ま	れ	ふ	し	ま		で	き	に	屋	来	語		語
せ	ど	私	漢	し	ど	を	と	し	国	す	今	て	な			年	学
な	き	は	字	た		読	た	た	語		年		り	玲	の	習	を
り	む	そ	で		私	み	い		の	毎	の	新	ま	愛	抱		を
	ず	の	自	宿	が	ま	じ	た	教	週	先	し	し		負		

2 枚目

						全	一	漢	に	次	文	、	強	あ	が	漢	
						部	年	字	す	の	章	と	だ	を	り	あ	字
						、	生	の	る	漢	を	勉	か	あ	ま	る	の
						卒	が	意	。	字	も	強	り	ま	す	か	意
						業	り	味	日	テ	ら	す	、	り	。	り	味
						ま	四	を	記	ス	、	る	私	し	け	で	が
						で	年	覚	を	ト	た	こ	の	ま	れ	す	よ
						に	生	え	毎	の	日	と	来	せ	ど	。	く
						覚	ま	る	日	勉	に	で	年	ん	、	漢	分
						え	で	よ	書	強	作	す	の	で	い	字	か
						た	の	う	き	を	る	。	抱	し	つ	テ	り
						い	漢	に	ま	水	こ	漢	負	た	も	ス	な
						で	字	す	す	曜	と	字	は	、	ト	い	
						す	を	る	。	日	。	の	も	勉	も	時	

1枚目

漢	解	と	た		が	！	来	る	6	発	が	を			り	
字	力	い	今	で	ト	ま	こ	学	年	表	あ	振	日		か	
が	に	私	と	年	こ	は	し	年	生	会	り	り	本		え	今
難	欠	は	思	は	き	残	た	新	が	か	で	ま	返	語		年
し	け	会	い	漢	ま	念	し	一	分	は	し	学			こ	一
い	る	話	ま	字	し	な	以	い	緒	中		た	て	習		年
か	の	力	す	を	た	が	前	ク	に	高	げ		に	ラ	来	の
さ	で	が	集		さ	に	ラ	な	等	々	ろ	い	っ	年	日	
で	す	あ	な	中	徐	い	ス		部	を	月	ろ	い	千	の	本
す		ぜ	的		々	た	メ	た	に	し	に	い	こ	又	抱	語
	こ	て	か	に	に	ク	！	こ	な	ま	行	ろ	こ	ソ	負	学
力	れ	も	と	勉	退	ラ	ト	と		し	わ	な	の	瑛		習
十	も	い	強		く	ス	も	に	こ	た	れ	こ	一	美		を
ダ	読	う	し		人	メ	出	よ		た	と	年				ふ

ま	り	弟	て		思	が	こ	感	す	を	そ	い	す		か	日	に
す	楽	や	勉	こ	い	出	も	じ	増	う	る		ホ	接	本	住	
	し	妹	強	の	ま	来		ま	日	や	ぐ	と	私	キ	し	語	ん
	く	が	す	ニ	す	こ	よ	し	本	す	う		の	マ	ま	を	で
	日	感	れ	っ			り	た	に	と	し	や	大	ブ	せ	読	い
	々	じ	ば	の		興	意		い	私	ま	は	好	ラ	ん	ま	る
	を	こ		こ		味	味	複	た	の	す	り	き	し		な	の
	感	い	日	と		が	を	雑	時	世		知	な	も		い	で
	じ	る	本	に		わ	理	な	も	界	そ	ら	了	増		た	
	る	よ	に	重		い	解	話	そ	が	し	な	ニ	や		め	漢
	と	う	行	点		こ	す	題	の	広	こ	い	メ	し			字
	確	に	く	を		く	る	に	よ	が		言	を	た		な	は
	信		時	お		る	こ	対	う	り	語	葉	見	い		か	日
	し	よ		い		と	と	し	に	ま	い	に	こ	で		な	常



中高等部 2

吉野 佳祐 先生

1年間を振り返って

吉野佳祐

2015年度は中高等部2のクラスを担当させて頂きまして、早いもので、あっという間に1年が終わろうとしています。この1年間も、クラスでの日本語学習をはじめ、センターで催される様々な行事にも生徒さんたちと参加させていただき、楽しい時間を過ごさせていただきました。

中高等部2の生徒さん達は、日本語や日本文化に強い興味を持ち、また、センターに通うのが長い方や日本に住んでいた方もおり、日本語を話し理解する能力がかなりあるので驚きました。休み時間などに話をしても、日本のことで話が進み、日本で流行っていることなどを教えてもらうこともありました。

生徒の皆さんは、夏休みに旅行したり、色々な趣味があるということで、文集のテーマは「2015年の思い出と2016年にやってみたいこと」とし、1年間を振り返って楽しかったこと、また2016年の目標などを作文してもらいました。

最後になりましたが、保護者の皆様のご協力、役員、そして教員の方々、1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

1 枚目

ん	さ	で	し	入	う	に	さ	し	の	日	通	し	さ	月	し				
だ	ん	も	ぎ	う	し	入	六	また	で	本	う	て	旅	た	間	た	私	2	
り	で	そ	そ	か	た	ま	り	月	し	京	に	こ	い	行	か	日	の	0	7
買	き	の	う	い	時	し	ま	来	た	で	都	行	と	ま	に	ら	本	な	2
い	ま	二	に	し	に	た	し	に	も	に	に	し	行	で	に	ぜ	0	6	0
物	た	時	私	て	た	東	今	は	た	な	た	く	す	行	か	1	年	1	
を	間	の	く	生	先	宇	年	一	時	前	と	5	に	5					
し	土	後	これ	徒	生	最	治	は	人	は	た	初	に	て	言	年	や	年	
ま	日	に	と	また	が	初	中	た	も	学	か	め	は	た	う	は	の		
し	も	は	を	し	ち	い	は	学	く	友	校	ら	て	す	く	と	と	て	思
た	友	見	た	に	て	校	さ	達	に	で	京	ご	さ	て	み	い			
い	達	て	私	し	て	と	ん	が	通	す	都	く	ん	夏	も	た	出		
初	が	い	み	の	も	言	の	い	わ	の	さ	の	休	楽	駒	い	と		
め	し	急	ま	ん	こ	に	さ	う	友	ま	な	今	中	ん	友	み	し	井	こ
て	よ	に	し	な	と	教	ん	中	達	せ	か	ま	学	ち	達	に	い	と	
の	に	た	た	は	を	室	ち	学	が	ん	で	校	で	が	二	年	空	し	
京	遊	く	ふ	し	に	校	で	で	た	は	に	う	で	で	で				

2 枚目

け	す	金	う	に	は	勉	授	し	う	や	ま	あ	績	に	が	都
な	を	し	い	ア	そ	強	業	ソ	セ	い	す	と	と	が	今	の
い	2	か	わ	ろ	ル	れ	し	を	フ	ジ	け	成	二	と	年	て
し	0	せ	け	い	バ	だ	な	分	は	エ	な	特	績	年	リ	も
ア	1	い	な	ろ	イ	け	い	か	英	ツ	い	に	を	て	た	2
か	6	で	い	買	ト	で	と	る	語	プ	と	英	あ	セ	い	0
り	年	服	で	を	は	だ	た	の	に	思	語	げ	ジ	で	1	か
し	は	や	す	て	し	な	め	め	学	行	い	の	た	エ	す	6
た	食	も	た	く	だ	に	校	さ	ま	勉	ち	ツ	年	た	し	ご
子	親	べ	だ	ら	い	と	は	な	た	す	強	が	ア	な	は	で
に	に	物	か	で	今	思	の	い	を	い	に	に	に	は	で	た
な	め	を	ら	て	す	年	英	で	か	ド	が	い	入	か	も	週
り	い	買	い	の	て	語	ら	ん	と	る	と	間	た	か	て	。
た	わ	い	自	る	い	夏	い	を	ち	で	ソ	ば	思	の	い	と
い	く	た	分	の	フ	体	ま	も	す	フ	ら	で	う	い	全	で
で	を	い	で	で	も	み	す	ん	と	な	て	と	い	体	し	で
す	か	で	お	も	親	に	と	と	ド	言	さ	い	も	成	的	た

2 枚目

					こ	と	ま	幸	な	す	と	映	に	り	か	に	は				す	た	ら	
					の	ひ	し	運	の	思	に	私	ま	い	行	た	こ					。	。	ん
					年	す	た	に	ひ	私	い	ま	か	せ	の	く	く	の					ま	な
					は			も	小	は	ま	し	是	ん	ひ	こ	さ	1					た	動
					き	こ	三		さ	小	す	た	非			と	ん	6					是	物
						れ	つ	ク	い	さ			行	日	日	ひ	あ	年					非	き
					と	ら	目	リ	鳥	い	二	す		本	本	す	リ	ひ						見
					盛	の	は	ス	を	こ	つ	ぶ	て	の	の		ま	私					私	れ
					リ	こ	乗	マ	飼	了	目	く	み	番	思	ナ	す	か					の	て
					上	と	馬	ス		か	は	楽	た	組	い	オ	。	や					友	達
					か	き	き	に	て	う	鳥	し	い	き	出	の	一						達	楽
					る	私	や	鳥	み	動	を	い	所	見	は	時	つ	こ					と	し
					と	か		か	た	物	飼	旅	が	て	ほ	か	目	み					い	い
					思	ひ	こ	ひ	い	か	う	行	テ	い	と	ら	は	た					き	一
					い	き	み	を	ひ	大	こ	に	し	る	ん	行		い					た	日
					ま	れ	る	貫	す	好	と	か	こ	と	ど		日	こ					い	ひ
					す	ば	こ	い		き	ひ	る	に	き	あ	て	本	と					ひ	し

2枚目

	に	た	ら	お	は		で	'	い	'	い		大	何	間	て	た	残	達	ト	滞	最
最	思	い	い	父	自	ま	す	て	で	と	'	2	好	回	'	行	友	り	と	ミ	在	初
後	い	と	た	さ	分	た	'	来	す	努	ば	0	き	も	プ	'	達	の	会	ニ	し	の
に	た	思	く	ん	で	'		年	'	力	い	1	で	食	1	て	と	'	え	カ	て	一
'	い	'	な	げ	夏	2		い	も	し	あ	6	す	事	ル	五	遊	週	て	に	い	週
旅	で	て	い	お	の	0		い	'	た	り	年	'	に	ヤ	時	の	間	'	行	る	間
行	す	い	の	母	仕	1		セ	と	い	ま	に		行	ビ	半	ま	'	す	け	と	は
に	'	ま	で	さ	事	6		ジ	勉	で	す	は		き	1	頃	し	モ	コ	て	こ	丁
た		す	'	ん	を	年		エ	強	す	'	成		ま	チ	に	た	ン	く	す	ろ	1
く		'	自	に	見	に		ツ	か	'	一	し		し	に	帰	'	ト	う	ゴ	に	C
さ		自	分	い	っ	ヤ		フ	出	成	つ	遂		た	行	り	毎	り	れ	く	会	A
ん		分	で	っ	け	'		に	き	績	目	ゲ		'	き	ま	日	オ	し	う	い	の
行		の	お	も	た	て		入	る	を	は	た		私	ま	し	十	1	か	れ	に	友
き		事	金	お	い	見		学	よ	上	勉	い		は	し	た	時	ル	'	し	来	達
た		を	も	金	で	た		し	う	げ	強	こ		旅	た	'	頃	か	た	い	ま	か
い		誇	稼	を	す	い		た	に	て	で	と		行	し	そ	に	う	で	し	し	私
で		り	ぎ	も	'	事		い	な	た	も	か		か	'	の	出	来	す	友	た	の

1 枚目

行	ン	ッ	ッ	で	ラ	か	で	で	い	っ	そ	ま	あ	行	た	い	夏			に		
バ	ド		て	ケ	す	一	と	日	す	職	け	の	ゆ	と		出	休	去		や		
ス	ト	一	み	一		×	よ	本		場	た	他	う	日	て	し	を	み	年		ッ	2
に	リ	つ	た	で	た	ン	か	語	働	で	の	に	リ	本	ワ	ス	い	の	は		て	0
乗	ッ	目	事	す	く	屋	ば	を	く	す	で			で	ク	ジ		問			み	1
	ッ	は	リ		さ	ね	い	い	人		嬉	七	梅	最	ワ	や	ば	に	と		た	5
て	を		ス	そ	ん	の	と		は	色	し	月	な	高	ク	水	(い)	日	て		い	年
ア	や	卒	ト	し	の	で	い	ば		人	か	の	ど	だ	が	族	作	本	も		事	の
×		業	の	て	お	元	う	い	ほ	な		終	が		止	館	れ	へ	良			思
リ	て	の	大		金	気	職	練	と	人	た	わ	美	た	ま		て	帰	い			い
カ	み	後	プ	2	を	が	場	習	人	に	で	リ	味	食	リ	花	嬉		年			出
や	た	に	レ	0	貫	い	で	出	ど	出	す	に	し	で	ま	火	し	て	で			と
ケ	い		ゼ	1	え		働	来	日	会		バ	か	物	せ	大	か		し	福		2
ベ	で	友	ン	6	る	ば	い	ま	本	え		イ		は	ん	会		楽	た	本		0
	ッ	す	達	テ	年	か	い	て	す	人	て		ト	た		で	な	た	し			1
ク		と	シ	で	ら	必	ま		な	幸	楽	を	で	イ	し	ど	で	(い)	特	莉		6
な		ロ		オ	要	す	よ	の	せ	し	見	す	か	た	に	し	思	に	那			年

2 枚目

馬	け	焼	日	ま	ど	ま	い	会	た	し	千	ご	時	あ	あ	り	い					二			
を	れ	け	は	れ	う	て	そ	い	い	い	に	く	は	ご	。	一	私					千			
あ	び	し	あ	い	し	い	う	ま	ハ	孤	行	楽	、	く	こ	デ	年	に				十	二		
る	も	ま	ご	な	ま	ま	た	し	イ	児	、	し	と	好	の	い	で	と				六	千		
こ	、	し	く	海	し	し	、	た	千	院	た	か	て	ま	ス	ソ	し	、				年	十		
と	こ	た	暑	に	た	た	た	、	で	を	こ	、	も	に	ポ	グ	た	て				に	五		
が	の	。	い	行	。	。	け	こ	は	建	と	た	ま	な	一	の	。	ニ				や	年		
で	旅	あ	日	ま	ま	そ	れ	の	多	設	で	で	ん	リ	ッ	チ	一	千				。	の		
ま	行	ご	で	ま	た	れ	び	子	く	ち	あ	ち	ま	は	一	っ	十					マ	て	思	
ま	で	く	し	し	、	を	、	た	の	る	。	。	。	し	初	ム	目	五					イ	み	い
し	は	い	た	た	私	見	元	ち	親	た	こ	ニ	う	た	め	に	は	年					ア	た	出
た	ち	た	。	。	た	て	気	は	が	め	の	っ	し	。	て	入	、	は					ス	い	と
。	ご	か	暑	海	ち	あ	に	あ	な	に	旅	目	ま	大	で	、	初	あ					伊	こ	
	ん	、	ち	に	は	ご	明	ご	い	行	行	は	し	会	し	た	め	ご					藤	と	
	い	た	ぎ	行	あ	く	る	く	子	ま	で	、	た	に	た	こ	て	く							
	い	で	て	、	ご	か	く	か	に	ま	は	ハ	が	出	が	と	チ	楽							光
	糸	あ	日	た	く	ん	生	わ	出	し	新	イ	あ	た	、	で	ア	し							那

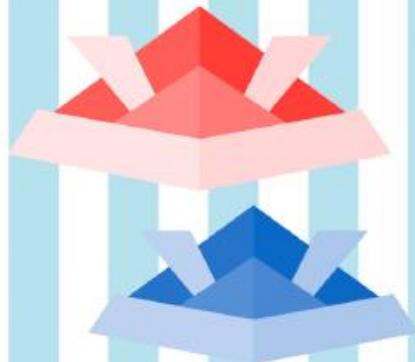
			あ	ど	生	い	た	あ	で	た	の	し	他	家	と	て	海	ば	ん	し	二
			。ん	が	文	り	て	遊	ら	免	た	に	族	が	み	に	暖	な	た	千	
			な	楽	化	、	み	最	べ	ま	許	い	は	と	な	た	行	か	こ	け	十
			一	し	に	色	た	後	ろ	た	を	と	い	い	い	い	い	と	れ	五	
			年	い	う	ん	い	に	よ	い	と	思	初	の	と	て	国	を	ど	年	
			に	一	れ	な	で	う	と	い	め	し	で	思	ス	に	し	も	に		
			な	女	て	こ	う	友	に	思	た	ま	て	い	キ	行	た	ニ	は		
			ろ	に	み	と	が	替	い	の	う	パ	に	一	ま	ま	き	い	千	た	
			か	な	た	を	末	ち	の	ま	で	い	や	度	う	一	た	と	十	く	
			楽	っ	い	発	た	と	安	う	去	ト	や	バ	い	思	六	ま			
			し	て	で	見	ら	一	全	今	年	タ	て	ま	ダ	で	い	年	ん		
			み	ほ	う	し	し	終	ろ	楽	年	ラ	イ	み	て	た	イ	う	ま	に	の
			に	し	た	い	に	守	し	の	イ	ム	た	み	肌	ビ	う	は	こ		
			し	い	ニ	り	終	方	知	り	く	夏	フ	の	い	た	戦	ン	ま	も	と
			こ	で	千	、	馬	行	た	フ	に	ガ	仕	で	い	し	グ	れ	た	を	
			い	す	十	新	を	に	い	一	は	一	事	う	で	た	ち	い	と	し	
			ま	六	し	し	行	で	ル	は	ド	を	う	こ	し	な	え	色	ま		

1 枚目

く	の	が	ま	1	た	ど	も	て	行	サ	で	歌	新	す	か	出	で		2	目	2	
バ	教	ん	す	ム	い	も	と	良	嬉	ッ	イ	私	と	し	ら	は	す	2	0	標	0	
ン	室	ば	。	し	と	や	ポ	い	し	た	エ	と	習	い	学	の	夏	0	1		1	
ド	で	り	そ	ス	思	動	ラ	年	い	り	ン	私	ネ	校	友	の	私	1	5	亀	5	
で	も	た	れ	方	物	ン	で	で	し	ス	の	た	ク	で	達	フ	の	6	年	谷	年	
ギ	毎	い	と	設	て	き	テ	し	す	て	フ	友	り	タ	は	と	ラ	二	年	は	マ	の
タ	週	と	学	で	い	助	た				エ	達	し	イ		出	ン	十	年	は	り	思
1	練	思	校	も	ま	け	ア	あ	色	ア	は	ま	き	1	会	ス	十	雪	あ	1	い	
を	習	の	働	す	る	の	2	ま	々	や	一	し	つ	0	え	旅	五	が			で	
弾	し	て	ク	き	キ	仕	0	り	な		位	た	け	0	て	行	年	な	と		と	
き	て	い	ラ	た	老	事	1	寒	新	キ	き		た	固	う	で	の	し	い			
た		ま	ブ	い	人	ン	を	6	く	し	取	ま	り	年	れ	す	一	で	う		2	
い	ソ	す	や	と	ホ	ペ	し	年	な	い	ン	り	た		の	し	番	始	間		0	
で	ロ	。	お	思	1	1	た	に	く	専	プ	ま		新	祝	か	色	の	ま	に	1	
す	で	ギ	勉	ム	ン	り	は			を	旅	し	り	し	い	々	お	り	終		6	
。	は	タ	強	て	や	を			と	習	行	た	レ	い	で	た	な	思	そ	わ	年	
	な	1	を	い	ホ	し	子	も	て	え	に		1	枝		で	国	い	う	り	の	

2 枚目

		れ	し	し		す	に	滑	も	し	色		り	興	タ	ッ		り	を	ま	こ	し
		ば	い	り	結	。	フ	リ	好	こ	ん	そ	ま	味	ー	フ	ニ	ま		し	コ	り
		良	機	年	論		ラ	た	ま	い	な	し	す	が	サ	の	の	し	。	た	ン	ス
		り	会	に	と		ン	り	な	ま	の	こ		あ	イ	勉	十	た	こ	。	ピ	ケ
		と	が	な	し		ス	ぞ	の	す	ア			る	エ	強	六		。	こ	ユ	ン
		思	で	了	こ		の	す	ぞ	。	ク	今		の	ン	を	年			プ	の	ユ
		い	き	と	、		親	。	色	た	テ	年		ぞ	ス	頑	に			ロ	ー	ル
		ま	こ	鬼	ニ		戚	そ	々	と	イ	は		大	と	張	は			グ	学	ル
		す	、	い	。		に	し	な	え	ビ	勉		学	エ	リ	去			ラ	期	に
		。	色	ま	十		会	こ	ス	は	テ	強		ま	ン	ま	年			ム	に	す
			人	す	六		い	、	キ	、	イ	た		ぞ	ヅ	す	と			の	は	ぐ
			な	。	年		に	今	一	ス	一	け		続	ニ	。	同			奨	一	慣
			こ	ど	も		行	年	場	キ	を	ぞ		け	ア	コ	様			学	番	れ
			と	人	と		き	の	に	一	楽	は		た	リ	ン	に			金	良	こ
			が	ど	こ		た	夏	行	が	し	な		リ	ン	ピ	セ			を	リ	頑
			学	ん	も		り	休	。	と	み	く		こ	グ	ユ	ン			も	成	張
			べ	新	化		ぞ	み	こ	こ	い	こ		鬼	に	ー	エ			り	績	。



子供の日

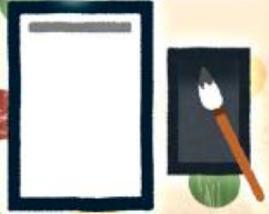




運動会



書き初め





分節

